

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	運動学 Kinesiology	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	熱田生/辻康夫 ○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分 曜日・時限	前期後半・後期 月曜1,2,3限
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
基礎を元に、関節運動、それを動かす筋、神経について理解する。実際に自分の身体を使い運動を実践しながら運動について説明できるようにすることで理解を深めていく。 運動器の構造、機能で学んだ知識を生かし、可動域を考えながら運動、動作を探索する。 実務経験 熱田生:九州大学クラウンブリッジ補綴学に所属しつつ義歯補綴科で臨床に従事している。 辻康夫:九州大学病院7年、てりは矯正歯科8年歯科臨床に携わる。							
【到達目標】							
骨、筋の知識をより実践的に理解できるようにする。							

授業計画・内容	
1回目	運動学概論、重心、ベクトルについて理解できる
2回目	てこについて理解できる
3回目	骨の構造、機能、カルシウム代謝について理解できる
4回目	関節の構造、機能について理解できる
5回目	筋の構造、機能、筋収縮について理解できる
6回目	筋収縮に必要なエネルギーについて理解できる
7回目	筋収縮の様態、随意運動の発現について理解できる
8回目	上肢帯の運動学について理解できる
9回目	肘関節の運動学について理解できる
10回目	試験・解説
11回目	前期範囲の復習①
12回目	前期範囲の復習②
13回目	神経の構造について理解できる
14回目	運動感覚について理解できる
15回目	反射について理解できる
16回目	肩関節、前腕の運動について理解できる
17回目	手関節の運動について理解できる
18回目	股関節の運動について理解できる
19回目	膝関節、足関節の運動について理解できる
20回目	学期末試験
21回目	体幹と脊柱の運動 胸椎 腰椎 仙椎について理解できる
22回目	体幹と脊柱の運動 顔面・頭部 姿勢について理解できる
23回目	姿勢(重心、立位姿勢、立位姿勢抑制)について理解できる
24回目	歩行(周期、分析)について理解できる
25回目	歩行(分析、代謝、異常歩行)について理解できる
26回目	運動発達(反射・反応、上肢の発達)について理解できる
27回目	運動学習(動機付け、記憶、学習)について理解できる
28回目	総復習
29回目	総復習
30回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	各運動について理解を深める上で、解剖学(骨・筋・神経)の復習は必須となります。歩行についても、自分自身で歩行を実践し復習してください。 覚えられところは授業中に覚える。必要に応じて自宅学習を行う。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	解剖学で学習した関節を実際に動かすことで運動学となります。各関節の運動や、総合的な運動として歩行などを学習していきます。自分の身体を使い、実際に運動をしながら学習してください。また欠席のないように注意して下さい。 骨、筋の知識を復習しながら、必要に応じて自宅学習をすることが望ましい。
【使用教科書・教材・参考書】	
運動学 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	外科学概論	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	今村 公一
	Surgey					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	開講区分	前期・後期
					3	曜日・時限	土日・不定

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 医療人として必要な外科学全般について、疾患の病態、原因、症状、予防、治療などについての基本を教科書およびプリントを使用して学習する。本講義終了時には各々の項目について説明できるようになる。

実務経験：外科学会専門医として外科診療に従事している。

【到達目標】
 将来、柔道整復師と仕事をするうえで必要な外科学知識を身に付ける。国家試験問題に対応できる知識を身に付ける。脳神経外科疾患、甲状腺、頸部疾患、胸壁、呼吸器疾患、心臓、脈管疾患、乳腺、腹部外科疾患について重要な点、禁忌を理解し、各項目について説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	総論 損傷 創傷について説明できる
2回目	総論 熱傷について説明できる
3回目	総論 炎症と外科感染症について説明できる
4回目	総論 腫瘍について説明できる
5回目	総論 ショックについて説明できる
6回目	総論 輸血 輸液について説明できる
7回目	総論 消毒と滅菌について説明できる
8回目	総論 手術について説明できる
9回目	総論 麻酔について説明できる。全身麻酔
10回目	総論 麻酔について説明できる。局所麻酔
11回目	総論 移植と免疫について説明できる
12回目	総論 出血と止血について説明できる。その1
13回目	総論 出血と止血について説明できる。その2
14回目	まとめ。オリジナルテストによる総復習など。
15回目	各論：脳神経外科疾患について説明できる。その1
16回目	脳神経外科疾患について説明できる。その2
17回目	各論：心臓・脈管疾患 その1
18回目	心各論：臓・脈管疾患 その2
19回目	復習講義：試験前対策
20回目	学期末試験
21回目	各論：脳神経外科疾患について説明できる。その1
22回目	各論：脳神経外科疾患について説明できる。その2
23回目	各論：心臓血管外科疾患について説明できる。その1
24回目	各論：心臓血管外科疾患について説明できる。その2
25回目	各論：呼吸器外科疾患について説明できる。
26回目	各論：腹部の外科疾患について説明できる。その1
27回目	各論：腹部の外科疾患について説明できる。その1
28回目	各論：肝臓、胆道系の外科疾患について説明できる。
29回目	各論：甲状腺、乳腺外科疾患について説明できる。総復習とオリジナルテスト
30回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	事前予習ではなく復習が必要不可欠である為。自宅での学習をしっかりと行ってください。復習も講義後、速やかに要点をチェックするように心がけてください。また、講義前に教科書を読んだだけではわかりにくい内容もあると思います。このため、復習に重点を置いて学習してください。復習は最低、講義プリントの再チェック、該当範囲の教科書のチェック、および講義小テストのチェックを行ってください。
評価方法	学期末試験（100%）により評価する。
受講生への メッセージ	日常生活で見かける外科的疾患は癌などの腫瘍や外傷などに触れることがあるかと思いますが。医療人を目指すにあたり、これらの知識を身につけておくことは将来、きっと役に立つと思います。頑張ってください！
【使用教科書・教材・参考書】	
講義プリント、外科学 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	整形外科学 Orthopedic Surgery	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	今村 公一
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	実務経験	○
					3	開講区分	前期・後期前半
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)

整形外科学的検査や診察法を学習することにより、専門的知識を修得することはもちろんのこと、医接連携のとれる柔整師になれるようになる。

実務経験: 外科学会専門医として外科診療に従事している。

【到達目標】

- ①整形外科的診察法を実践できる
- ②画像診断について説明できる
- ③整形外科的腫瘍について理解し説明ができるようになる
- ④国家試験に対応できるレベルの理解力を修得する

授業計画・内容

1回目	運動器の基礎知識について理解する
2回目	整形外科診察法について理解する
3回目	整形外科検査法について理解する
4回目	整形外科的治療法について理解する
5回目	骨関節損傷総論について理解する
6回目	スポーツ外傷 総論・リハビリテーション総論について理解する
7回目	感染症について理解する
8回目	骨腫瘍について理解する
9回目	軟部腫瘍について理解する
10回目	関節リウマチ(OA)について理解する
11回目	全身性の骨軟部疾患について理解する
12回目	骨系統疾患について理解する
13回目	全身性疾患について理解する
14回目	骨端症について理解する
15回目	神経麻痺について理解する
16回目	全身性神経線維症について理解する
17回目	脊髄腫瘍について理解する
18回目	身体部位別各論 頸部・胸椎部について理解する
19回目	前期総復習
20回目	前期定期試験
21回目	身体部位別各論 肩 について理解する
22回目	身体部位別各論 上腕 について理解する
23回目	身体部位別各論 肘・前腕 について理解する
24回目	身体部位別各論 手関節・手 について理解する
25回目	身体部位別各論 骨盤 について理解する
26回目	身体部位別各論 股関節 について理解する
27回目	身体部位別各論 大腿 について理解する
28回目	身体部位別各論 膝・下腿 について理解する
29回目	後期前半総復習
30回目	後期前半定期試験
準備学習 時間外学習	各授業の復習を家庭で実施してください
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	整形外科の領域は柔道整復師の業務と関わりが深い内容です。正しい知識を身につけ、それぞれの業務範囲の中で医接連携がとれるようになってください。欠席がないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
整形外科学 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	衛生学・公衆衛生学 Hygiene/Public Health	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	宇都宮 美咲
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 3	実務経験	○
				開講区分	前期・後期前半		
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 衛生学・公衆衛生学を学ぶ事で、現代社会で最も重要とされる問題の一つである感染症対策を含め、個々の健康を守るためだけでなく、地域社会へ貢献する為にも必要不可欠な知識を本講義で修得する。</p> <p>実務経験 九州大学病院、福岡赤十字病院、九州大学、一般歯科医院などに勤務</p> <p>【到達目標】</p> <p>衛生学の基礎知識を修得し、説明ができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	人口統計および保健衛生統計について理解する
2回目	生活の役割 健康の測定・人口ピラミッド、人口動態統計 人口動態統計について理解する
3回目	疾病の自然史 危険因子 疾病予防の段階について理解する
4回目	感染症とは、感染症成立の条件、その他の感染症について理解する
5回目	ウイルス感染症、細菌感染症について理解する
6回目	感染症の予防対策について理解する
7回目	消毒の意義 種類と方法、院内感染対策について理解する
8回目	環境問題：温暖化、砂漠化、酸性雨などについて理解する
9回目	公害：考え方、歴史、わが国の四大公害訴訟について理解する
10回目	空気の衛生：成常成分、異常成分、内分泌かく乱物質について理解する
11回目	水の衛生と水質汚濁：上水、下水、健康被害について理解する
12回目	住居：健康な住居の原則について理解する
13回目	食品衛生活動：食中毒、安全対策、栄養対策について理解する
14回目	母子保健の指標、母子保健行政、対策について理解する
15回目	学校保健管理、保健教育：学校・指導について理解する
16回目	産業保健の目的：職業病とその対策について理解する
17回目	健康診断、健康増進、リハビリテーションについて理解する
18回目	生活習慣病：がん、脳血管疾患、心疾患について理解する
19回目	前期総復習
20回目	前期定期試験・解答解説
21回目	高齢者福祉、認知症支援、介護保健について理解する
22回目	精神の病気：統合失調症、心身症、不安障害について理解する
23回目	精神の病気：物質関連障害、認知症、気分障害について理解する
24回目	プライマリヘルスケア・ヘルス、プロモーション、WHOの活動について理解する
25回目	衛生行政機構、国・都道府県・保健所・市町村について理解する
26回目	医療保険：制度の概要、保険給付、医療費の分析について理解する
27回目	ヒヤリハット、インシデント、アクシデント、インフォームドコンセントについて理解する
28回目	調査対象、記述疫学、分析疫学（コホート研究 症例対照研究）について理解する
29回目	後期前半総復習
30回目	後期前半定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	衛生学の基礎知識を習得し、説明ができるようになる。
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	国家試験も近いので、対策もその都度行っていきます。
【使用教科書・教材・参考書】	
公衆衛生学 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	解剖学 I Anatomy I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	辻康夫/角静香 ○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	80 4	開講区分 曜日・時限	通年 火曜1・2限、金3限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>骨折、脱臼を学ぶ上で必要な運動器の名称、構造、役割について学び、柔道整復師としての基礎固めを行う 実務経験 辻康夫:九州大学病院7年、てりは矯正歯科8年歯科臨床に携わる。 角静香:九大病院にて4年間歯科臨床に携わる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>骨、筋の名称、役割、構造、特徴について説明ができるようになる</p>							

授業計画・内容	
1回目	解剖学概論、骨の役割、骨の分類について理解できる
2回目	骨の組成、長骨の構造について理解できる
3回目	骨の発生、骨の連結について理解できる
4回目	カルシウム代謝について理解できる
5回目	上肢帯の骨、肩関節、肘関節について理解できる
6回目	手の骨、関節について理解できる
7回目	下肢の骨、骨髄の構造について理解できる
8回目	股関節、膝関節について理解できる
9回目	下肢の骨、股関節について理解できる
10回目	足の骨、関節のまとめ、関節の分類について理解できる
11回目	筋の分類、骨格筋概論について理解できる
12回目	筋収縮について理解できる
13回目	筋の分類、骨格筋概論について理解できる
14回目	筋収縮について理解できる②
15回目	上肢の筋と支配神経について理解できる
16回目	下肢の筋と支配神経について理解できる
17回目	胸郭と呼吸運動について理解できる1
18回目	胸郭と呼吸運動について理解できる2
19回目	全体のまとめ
20回目	学期末試験

21回目	頭部の骨について理解できる1
22回目	頭部の骨について理解できる2、頭部の筋について理解できる1
23回目	頭部の筋について理解できる2
24回目	体液論について理解できる
25回目	浸透圧と拡散について理解できる
26回目	浸透圧調節について理解できる
27回目	ナトリウムイオンと血圧について理解できる
28回目	血圧調節について理解できる
29回目	まとめ、復習
30回目	試験・解説
31回目	神経系:脳について理解できる
32回目	神経系:脊髄について理解できる
33回目	神経系:末梢神経・脳神経について理解できる①
34回目	神経系:末梢神経・脳神経について理解できる②
35回目	神経系:末梢神経・脊髄神経について理解できる
36回目	神経系:末梢神経・自律神経について理解できる
37回目	神経系総復習①
38回目	神経系総復習②
39回目	神経系総復習③
40回目	試験・解説
準備学習 時間外学習	見られるところは授業中に覚える。必要に応じて自宅学習を行う。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	骨、筋の学習においては記憶、理解する項目が多い為、自宅学習をすることが望ましい。
【使用教科書・教材・参考書】	
解剖学 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	解剖学Ⅱ Anatomy Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経歴	宇都宮 美咲/辻 康夫 ○
コース	共通	授業形態	講義	総時間 (単位)	00 4	開講区分 曜日・時間	通年 月曜3限金曜1・2限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>細胞)人体は細胞という構成単位が多数集まってできた多細胞生物であり、その最小単位である細胞は分野にも通じる基礎である。講義を通じて、細胞、そしてその構造・働きを同じくする組織について学ぶ。 (循環)ヒトが生きていくためには身体を構成する器官・組織・細胞に酸素と栄養素を補給する必要がある。そこで生じた炭酸ガスや老廃物を取り除かなければならない。このような物質輸送にあたる血液とリンパを全身のすみずみにまで行き運らせるのが循環系であり、その基礎を学ぶ。</p> <p>実務経歴 宇都宮美咲：九州大学病院、福岡赤十字病院、九州大学、一般歯科医院などにより勤務 辻康夫：九州大学病院7年、てりは矯正歯科8年歯科臨床に携わる</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>細胞、組織、器官、器官系について系統別に、その構造・機能を説明できる。また、心臓血管系についてその構造と機能について説明できる。また、その知識を日常生活や臨床実習において活用できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	〈組織〉解剖生理学の歴史についてその概要を説明できる
2回目	細胞・組織・器官・器官系について、その概要を説明できる
3回目	細胞の構造とその機能について説明できる
4回目	DNAの構造や複製、蛋白質合成について説明できるについて説明できる
5回目	細胞膜の透過性について説明できる
6回目	物質代謝について説明できる
7回目	細胞の電気現象について説明できる
8回目	上皮組織・支持組織について説明できる
9回目	筋組織について説明できる
10回目	神経組織について説明できる
11回目	染色体と減数分裂について説明できる
12回目	受精と着床について説明できる
13回目	〈循環〉脈管系とその概要を説明できる
14回目	血管の形態と構造、機能的分類について説明できる
15回目	血液について説明できる
16回目	心臓の位置・形態・構造について説明できる
17回目	心筋の自動性についてそのメカニズムを説明できる
18回目	心筋細胞単位での興奮状態と静止状態について説明できる
19回目	心電図について説明できる
20回目	学期末試験

21回目	心周期について説明できる
22回目	血圧について説明できる
23回目	神経性調節について説明できる
24回目	体液性調節について説明できる
25回目	心臓管系について説明できる
26回目	門脈系、胎児の循環系について説明できる
27回目	リンパ系について説明できる
28回目	局所循環系について説明できる
29回目	消化器①について説明できる
30回目	消化器②について説明できる
31回目	呼吸器①について説明できる
32回目	呼吸器②について説明できる
33回目	泌尿器について説明できる
34回目	生殖器①について説明できる
35回目	生殖器②について説明できる
36回目	内分泌系について説明できる
37回目	総復習①
38回目	総復習②
39回目	総復習③
40回目	期末試験
準備学習 時間外学習	講義の中で可能な限り、理解し、必要であれば、自宅学習を行う。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生へのメッセージ	少ない時間でもよいので、毎回行う確認テストを中心に復習し、その都度知識を定着させていくことが望ましい。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書、講義資料(配布)	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	解剖・運動学	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	落石 宏之 ○
	Anatomy and Kinesiology	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分 曜日・時限	水 1限 2限 4限
コース	共通						
【前置の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような視点を実施するのか、具体的に記載する) 解剖学の用語について馴染んでもらい身に付くように授業を進めたい。難しい医学用語や文字などに馴染んでもらうために筆記を取り入れる。 実務経験 整形外科医にて勤務やなごみ鍼灸院管理責任者など14年の実務経験							
【到達目標】 柔道整復科の柱として「解剖学」の中で骨・関節・筋などの運動系について正常な構造を学ぶ。							

授業計画・内容	
1回目	骨の役割・形状による分類・構造・発生と成長・形状についての用語を理解し、説明することができる。
2回目	骨の連結を理解し、説明することができる。
3回目	骨の連結・上肢骨の構成を理解し、説明することができる。
4回目	上肢骨の構成・肩甲骨を理解し、説明することができる。
5回目	鎖骨 肩鎖関節・胸鎖関節を理解し、説明することができる。
6回目	上肢骨 肩関節を理解し、説明することができる。
7回目	腕骨・尺骨 肘関節を理解し、説明することができる。
8回目	手根骨・中手骨・指骨 手の関節を理解し、説明することができる。
9回目	上肢骨の復習を理解し、説明することができる。
10回目	下肢骨の構成 寛骨を理解し、説明することができる。
11回目	大腿骨 股関節を理解し、説明することができる。
12回目	膝蓋骨・下腿骨 膝関節を理解し、説明することができる。
13回目	足根骨・中足骨・跖骨を理解し、説明することができる。
14回目	概足骨・横足骨 足関節を理解し、説明することができる。
15回目	骨格筋の形態と起終・停止 筋の作用 筋の補助装置を理解し、説明することができる。
16回目	頸部の筋・胸筋の筋を理解し、説明することができる。
17回目	呼吸運動・腹筋の筋を理解し、説明することができる。
18回目	背筋の筋を理解し、説明することができる。
19回目	総まとめ
20回目	学期末試験
21回目	上肢帯の筋を理解し、説明することができる。
22回目	上腕の筋・前腕の筋を理解し、説明することができる。
23回目	前腕の筋を理解し、説明することができる。
24回目	手の筋 母指球筋・中手筋・小指球筋を理解し、説明することができる。
25回目	下肢帯の筋を理解し、説明することができる。
26回目	大腿の筋を理解し、説明することができる。
27回目	下腿の筋を理解し、説明することができる。
28回目	下腿の筋・足の筋を理解し、説明することができる。
29回目	総まとめ
30回目	後期試験 試験解説
履修指導 時間外学習	授業初めには、筋の授業の要点確認から始める。また、小テストも行うので日々復習をすること。
評価方法	定期試験 100%
受講生への メッセージ	医療人となるための共通言語として必ず必要となる基礎知識となるので、継続的な学習が必要となるのでしっかりと取り組んでほしい。
【使用教科書・資料・参考書】	
『解剖学』改訂第2版 全国柔道整復学校協会	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	生理学 I Pathology	必修 選択	必修	年次	#	担当教員 実務経歴	角 静香/自見 英治郎 ○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	80 4	開講区分 曜日・時間	前期・後期 火曜日1・2・3限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>基礎である血液や免疫、内分泌を学ぶことによって、ホルモンの作用不全による疾患、血液疾患、免疫不全などの疾患につながる為、必要不可欠な知識である。血液、内分泌、免疫について20回終了後、各々が説明できるようになる。 人間は栄養を摂取して生活をしているが、どのように食物は体内へ取り込まれ、どのようにして栄養のみ吸収しているのかを理解する。また、普段意識せずに自然に行っている呼吸についても、その構造、仕組みについて理解する。</p> <p>※実務経歴 角静香:九大病院にて4年間歯科臨床に携わる。 自見英治郎:1991年～1995年九州大学病院勤務 1996年～1998年歯科医院勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>血液、免疫のしくみ、ホルモンについて理解でき、各機能についても説明ができるようになる。 循環・呼吸・泌尿について理解でき、各機能についても説明ができるようになる。 栄養の摂取・消化・吸収について理解し、説明できる。 呼吸のメカニズムについて理解し、説明できる。</p>							
授業計画・内容							
1回目	血液① 血液の役割 血液組成 赤血球 白血球について説明できる						
2回目	血液② 血小板 血液凝固 血液型について説明できる 練習問題						
3回目	免疫① 免疫系の仕組み リンパ系の主な器官 免疫に関わる細胞 について説明できる						
4回目	免疫② 免疫反応 抗原と抗体について説明できる 練習問題						
5回目	内分泌① ホルモンの性質 調整機構 視床下部と下垂体について説明できる						
6回目	内分泌② 視床下部ホルモン 下垂体ホルモン 松果体について説明できる						
7回目	内分泌③ 甲状腺について説明できる						
8回目	内分泌④ 甲状腺② 血漿カルシウム濃度調整について説明できる 練習問題						
9回目	内分泌⑤ 副腎について説明できる 練習問題						
10回目	内分泌⑥ 膵臓について説明できる 練習問題						
11回目	内分泌⑦ 性腺について説明できる 練習問題						
12回目	内分泌⑧ 成長ホルモン 血糖とホルモンについて説明できる						
13回目	今まで習った内容に関して復習し各項目について説明できる						
14回目	生理学実習 顕微鏡の使い方						
15回目	生理学実習 末梢血						
16回目	生理学実習 末梢血						
17回目	生理学実習 内分泌器官(膵臓)						
18回目	生理学実習 内分泌器官(甲状腺)						
19回目	全範囲の復習、試験対策						
20回目	学期末試験						

21回目	消化器系1 口腔について説明できる
22回目	消化器系2 咽頭、食道について説明できる 前回の講義確認テスト1
23回目	消化器系3 胃について説明できる 前回の講義確認テスト2
24回目	消化器系4 小腸について説明できる 前回の講義確認テスト3
25回目	消化器系5 大腸、痔臓について説明できる 前回の講義確認テスト4
26回目	消化器系6 肝臓について説明できる 前回の講義確認テスト5
27回目	消化器系7 胆嚢、腹膜について説明できる 前回の講義確認テスト6
28回目	消化器系8 栄養素について説明できる 前回の講義確認テスト7
29回目	消化器系9 まとめ 前回の講義確認テスト8
30回目	消化器系10 中間試験
31回目	呼吸器系1 鼻腔について説明できる
32回目	呼吸器系2 咽頭、喉頭、気管と気管支について説明できる 前回の講義確認テスト9
33回目	呼吸器系3 肺と胸膜について説明できる 前回の講義確認テスト10
34回目	呼吸器系4 呼吸のプロセスについて説明できる 前回の講義確認テスト11
35回目	呼吸器系5 換気について説明できる 前回の講義確認テスト12
36回目	呼吸器系6 ガス交換について説明できる 前回の講義確認テスト13
37回目	呼吸器系7 血液によるガス運搬について説明できる 前回の講義確認テスト14
38回目	呼吸器系8 呼吸周期の調節について説明できる 前回の講義確認テスト15
39回目	呼吸器系9 まとめ 前回の講義確認テスト16
40回目	呼吸器系10 最終試験
準備学習 時間外学習	内容的には難しい範囲でもあるので毎回の授業の理解を次の授業までに確実にしておくことが必要である。
評価方法	小テスト、実習における提出物、定期試験
受講生への メッセージ	血液・免疫・内分泌は人間が生きていく中で重要な機能を司るものである。疾患との関連性が大きく他の科目との関連性も大きい。ため、自宅学習を行い理解を深めることが好ましい。 循環・呼吸・泌尿は人間が生きていく中で重要な機能を司るものである。疾患との関連性が大きく他の科目との関連性も大きい。ため、自宅学習を行い理解を深めることが好ましい。
【使用教科書・教材・参考書】	
解剖学 全国柔道整復学校協会 監修 生理学 全国柔道整復学校協会 監修	プリント教材

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復学 I Judo Therapy I	必修 選択	必修	年次	I	担当教員 実務経験	水元 宏哉 ○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	80 4	開講区分	通年
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<ul style="list-style-type: none"> ・骨折の総論、上肢の骨折について学ぶ ・柔道整復師、柔道整復術の歴史について学ぶ 実務経験: 整形外科で2年 整骨院で6年勤務 							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・骨折の総論について説明する事ができる ・上肢の骨折について説明する事ができる ・骨折の各論 上肢(鎖骨から手指まで)について説明できる 							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション(柔道整復師とは、柔道整復術とは)
2回目	骨折総論 各組織の損傷(骨の機能と形態)について理解できる
3回目	骨折総論 各組織の損傷(骨損傷の概説、骨折の分類)について理解できる
4回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の分類)について理解できる
5回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の分類)について理解できる
6回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の症状)について理解できる
7回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の症状)について理解できる
8回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の合併症)について理解できる
9回目	確認テストに向けての復習
10回目	確認テスト
11回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の合併症)について理解できる
12回目	骨折総論 各組織の損傷(小児骨折)について理解できる
13回目	骨折総論 各組織の損傷(高齢者骨折)について理解できる
14回目	骨折総論 各組織の損傷(骨折の癒合日数、骨折の治癒経過)について理解できる
15回目	総論 診察、治療法(整復法)について理解できる
16回目	総論 治療法(整復法)、柔道整復術および柔道整復師の沿革について理解できる
17回目	肩甲帯の骨折について理解できる①
18回目	肩甲帯の骨折について理解できる②
19回目	総復習
20回目	学期末試験

21回目	肩甲帯の骨折について理解できる③
22回目	上腕近位端部の骨折について理解できる①
23回目	上腕近位端部の骨折について理解できる②
24回目	上腕近位端部の骨折について理解できる③
25回目	上腕近位端部の骨折について理解できる④
26回目	上腕遠位端部の骨折について理解できる①
27回目	上腕遠位端部の骨折について理解できる②
28回目	上腕遠位端部の骨折について理解できる③
29回目	前腕近位端部の骨折について理解できる①
30回目	前腕近位端部の骨折について理解できる②
31回目	前腕近位端部の骨折について理解できる③
32回目	前腕遠位端部の骨折について理解できる①
33回目	前腕遠位端部の骨折について理解できる②
34回目	前腕遠位端部の骨折について理解できる③
35回目	手部の骨折について理解できる①
36回目	手部の骨折について理解できる②
37回目	手指部の骨折について理解できる①
38回目	手指部の骨折について理解できる②
39回目	総復習、まとめ
40回目	試験
準備学習 時間外学習	わからない用語を調べておくなどの予習、講義後に確認問題を解きなおすなど反復が必要。
評価方法	定期試験
受講生への メッセージ	柔道整復師の基本となる大切な範囲です。予習、復習を怠らず取り組んでください
【採用教科書・教材・参考書】	
柔道整復理論1 改訂第7版	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復学Ⅱ Judo TherapyⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	吉永 あずさ ○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	80 4	開講区分 曜日・時間	通年 月/2・3・4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>骨や筋、関節の構造を学び、筋の起始・停止・作用を理解し人体の構造と機能についての基礎を固め説明が出来るようになる。 正常な構造と機能を学ぶことで異常な状態を理解することが出来るようになる。 「関節損傷」の基礎を中心に学び、外傷(骨折・脱臼・軟損)についての知識を理解する。柔道整復師として活躍する為に、まずその外傷が柔道整復師の業務範囲内であるか否かを判断し、その後、適切な処置ができるだけの知識と技術を備えておく必要がある。当該科目では脱臼、軟部組織損傷の症状や合併症、それに対する処置の方法などを学習する。 実務経験: 整骨院で6年勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>脱臼、軟部組織損傷の理解を深め、自分の言葉で説明できるようになる 履修範囲の国家試験過去問題、または同等レベルの問題を解くことができる</p>							

授業計画・内容	
1回目	関節の構造と機能について理解できる①
2回目	関節の構造と機能について理解できる②
3回目	関節損傷の概説、関節損傷の分類、鑑別診断を要する類症について理解できる
4回目	脱臼の定義と概説、発生頻度について理解できる
5回目	脱臼の分類について理解できる①
6回目	脱臼の分類について理解できる②
7回目	脱臼の症状、合併症について理解できる
8回目	脱臼の整復障害、経過と予後、整復法(P92~P95)、脱臼・軟損について理解できる
9回目	靭帯・関節包の損傷・関節周囲の筋・腱損傷について理解できる
10回目	関節軟骨損傷その他の関節構成組織の損傷について理解できる
11回目	復習(1回目~10回目) グループワークによる問題演習
12回目	筋の形態と機能、筋損傷の概説、筋損傷の分類について理解できる
13回目	筋損傷の症状、筋損傷の治癒機序、筋損傷の予後について理解できる
14回目	腱の構造と機能と腱損傷の概説が理解できる
15回目	腱損傷の分類、腱損傷の症状、腱損傷の治癒機序について理解できる
16回目	神経の構造と機能、神経損傷の概要について理解できる
17回目	神経損傷の分類、神経損傷の症状、神経損傷の治癒機序について理解できる
18回目	問題演習
19回目	総復習
20回目	学期末試験

21回目	固定法(P91~P100)について理解できる
22回目	後療法、手技療法、運動療法、物理療法について理解できる
23回目	指導管理(P135~P140)について理解できる
24回目	顎関節脱臼(P163~P166)について理解できる
25回目	外傷性顎関節損傷B、頭部・顔面部打撲について理解できる
26回目	顎関節症について理解できる
27回目	胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸部・背部打撲について理解できる
28回目	頸椎脱臼、胸椎脱臼について理解できる
29回目	頭部捻挫、寝違え、むちうち損傷について理解できる
30回目	頸椎部の神経損傷、頸部の疾患、斜頸、頸椎ヘルニア、後縦靭帯骨化症について理解できる
31回目	胸郭出口症候群、胸背部軟部組織損傷 (P208~P209)、脊椎側彎症について理解できる
32回目	腰部の軟部組織損傷(P216~P217)、腰部の疾患(P219)、腰椎椎間板ヘルニアについて理解できる
33回目	鎖骨の脱臼、胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼について理解できる
34回目	肩関節前方脱臼について理解できる
35回目	肩関節後方脱臼、下方脱臼、上方脱臼、反復性肩関節脱臼について理解できる
36回目	肘関節脱臼について理解できる
37回目	肘関節脱臼について理解できる
38回目	肘内障について理解できる
39回目	総復習
40回目	試験・解説
準備学習 時間外学習	授業資料や教科書を用いて予習、復習を行うことが望ましい
評価方法	試験
受講生への メッセージ	乗道整備師となる為に必要な基礎の部分です。 わからない所は相度確認して次回に持ち越さないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
乗道整備理論 改訂第7版	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	物理療法機器等の取り扱い Handling of Physical Therapy Instruments	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	落石 宏之
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	20	実務経験	○
コース	共通				1	開講区分	後期
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>病院や整骨院で取り扱う物理療法について理解する。基本的な使用方法について学ぶ。適用と禁忌について正しく理解する。 実務経験: 整形外科医院にて勤務やなごみ鍼灸整骨院自営など14年の実務経験</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>現場で必ず使用することになる物理療法について学び、適用(効果)と禁忌(逆効果)について正しく理解することを目標とする。物理療法を使用するにあたって必要な説明が出来るようになる事も目標とし、患者に対する気配りが出来るようになる事も目標とする。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、ガイダンス
2回目	物理療法について理解できる(概説)
3回目	物理療法の分類と安全対策について理解できる
4回目	電気療法について理解できる
5回目	温熱療法について理解できる①
6回目	温熱療法について理解できる②
7回目	牽引療法などについて理解できる
8回目	適用と禁忌について理解できる
9回目	総復習
10回目	定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	事前に教科書をゆっくり読んで学習しておく。
評価方法	定期試験(100%)
受講生への メッセージ	整骨院であれ整形外科であれ、必ず物理療法を患者に施術する機会があります。作用があれば必ず副作用もありますので、各種物理療法の適用と禁忌をきちんと学んで、効果的な使用を出来るようになってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復学・理論編【全国柔道整復師学校協会監修】改定第7版	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	基礎 柔道整復実技	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	内村 陽一 ○
	Basic Judo Therapeutic Lab	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 3	開講区分 曜日・時間	通年 木曜(1. 2. 3限)
コース	共通						
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
柔道整復師に必要な体表解剖、触診を学ぶ。 柔道整復師に必要な包帯固定学を学ぶ。 実務経験: 田口整骨院にて2年9ヵ月その後 うちむら接骨院を開業4年経過							
【到達目標】							
身体ランドマークを理解し目的部分を触診できるようになる。 基本包帯法の基礎(種類、巻き方)を理解し、実践できる。							

授業計画・内容	
1回目	体表解剖学・触診の重要性とその意味を述べることができる。医療用語として使われる身体の部位・動作を理解できる
2回目	体表解剖学(頭部・頸部・胸部・背部・上肢) 全身の検脈ができるようになる(5つ)
3回目	上肢の骨筋を触診できる(鎖骨・肩甲骨) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。肩甲骨を動かす筋の名称を覚える。
4回目	上肢の骨筋を触診できる(上腕骨) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。肘関節を動かす筋の名称を覚える。
5回目	上肢の骨筋を触診できる(橈骨・尺骨) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。肘関節を動かす筋の名称を覚える。
6回目	上肢の骨筋を触診できる(手根骨・指骨) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。手関節を動かす筋の名称を覚える。
7回目	上肢の骨筋を触診できる(手根骨・指骨) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。手関節を動かす筋の名称を覚える。
8回目	総復習と試験対策
9回目	中間試験
10回目	中間試験
11回目	試験解説と上肢のおさらい
12回目	体表解剖学(背部・大腿部・後下腿部)
13回目	体幹の骨筋を触診できる(骨盤・腰椎) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。体幹を動かす筋の名称を覚える。
14回目	体幹の骨筋を触診できる(骨盤・腰椎) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。体幹を動かす筋の名称を覚える。
15回目	下肢の骨筋を触診できる(大腿骨) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。股関節を動かす筋の名称を覚える。
16回目	下肢の骨筋を触診できる(膝蓋骨・脛骨・腓骨) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。膝関節・を動かす筋の名称を覚える。
17回目	下肢の骨筋を触診できる(足根骨) 骨・筋の位置を確認しながら、筋の名称と形状を覚える。足関節を動かす筋の名称を覚える。
18回目	総復習と試験対策
19回目	期末試験
20回目	学期末試験

21回目	試験解説と上肢のおさらい (1)オリエンテーション (2)包帯の使用法について説明できる。
22回目	(1)固定材料の種類を説明できる。(2)巻軸帯の巻き方の基礎、包帯の持ち方、注意事項、巻軸帯の巻き戻しについて実施できる。
23回目	基本包帯法:環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯について実施できる。(前腕を使用し実施)
24回目	基本包帯法:亀甲帯(離開・集合)、麦穂帯(上行・下行)について実施できる。(肘関節、肩関節を使用し実施)
25回目	手関節から肘関節までの包帯固定が実施できる。(環行帯、麦穂帯、螺旋帯、折転帯、亀甲帯を使用)
26回目	手関節から肘関節までの包帯法 復習
27回目	肘関節の包帯固定が実施できる。(麦穂帯、三角巾、腋窩枕子を使用)
28回目	足関節の包帯固定が実施できる。(環行帯、麦穂帯、亀甲帯を使用)
29回目	試験(前半組は実技試験、後半組は筆記試験)
30回目	試験(前半組は筆記試験、後半組は実技試験)
31回目	試験解説と基本包帯法のおさらい。 冠名包帯法の種類が説明できる。
32回目	冠名包帯法のヴェルポー包帯を実施できる。 ※患側は右側とする。
33回目	冠名包帯法のジュール包帯を実施できる。 ※患側は右側とする。
34回目	冠名包帯法のデゾー包帯法(1帯・2帯)が実施できる。 ※患側は右側とする。
35回目	冠名包帯法のデゾー包帯法(第3帯以降)が実施できる。 ※患側は右側とする。
36回目	冠名包帯法のデゾー包帯法が実施できる。 ※患側左側とする。
37回目	冠名包帯 復習 (デゾー帯・ヴェルポー帯・ジュール帯) 左右できるようになる。
38回目	冠名包帯 復習 (デゾー帯・ヴェルポー帯・ジュール帯) 左右できるようになる。
39回目	実技試験
40回目	実技試験
41回目	特別講義
42回目	特別講義
43回目	特別講義
44回目	特別講義
45回目	特別講義
準備学習 時間外学習	授業最後に次週行う場所を伝え軽く目を通してもらう。 教科書を開き調べる癖をつける。
評価方法	実技試験・筆記試験・平常点にて総合的に評価
受講生への メッセージ	包帯法は柔道整復師の臨床現場で必ず必要となる技術である。その基礎となる基本包帯法は習得すべき項目であるため、反復練習によって技術を磨いてほしい。講義内、その他の時間(補習、自宅学習)で積極的に練習に臨んでほしい。 併席生のスペシャリストへの第一歩として3年間目的意識を持ち1歩ずつ一緒に進んでいきましょう。
	【使用教科書・教材・参考書】
	運動療法のための機能解剖学的触診技術(改訂第2版)上肢・下肢 包帯固定学(改訂第2版) 巻軸包帯(3.4.5.0製)包帯巻き棒

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅴ	必修 選択	必修	年次	I	担当教員	吉永 あずさ
	Advanced Judo Therapeutic Lab Ⅴ					実務経験	
コース	共通	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30	開講区分	後期
					I	曜日・時間	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>臨床現場で使用される金属副子、アルミ副子、厚紙副子を実際に作成して即戦力となる為に必要な技術を学ぶ。 上記の固定具作成だけでなく関係する包帯や固定具などの知見を広げ柔道整復師としていかなる状況であっても応急処置を施行できるようになる。 実務経験: 整骨院で6年勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>外傷と対応する固定具を理解し、患者に最適な職位最適な道具を選び、固定ができる 外傷に対する知識を学び、鑑別診断ができる</p>							
授業計画・内容							
1回目	厚紙副子を使用した足関節包帯法(厚紙作成)ができる						
2回目	厚紙副子を使用した肩関節包帯固定(厚紙作成)ができる						
3回目	クラーメル副子の作成(肘関節後方脱臼用)ができる						
4回目	クラーメル副子を用いた包帯固定ができる						
5回目	クラーメル副子の作成(コーレス骨折用)ができる						
6回目	クラーメル副子を用いた包帯固定ができる						
7回目	アルフェンスを用いた固定(第5中手骨用)ができる						
8回目	アルフェンスを用いた固定(第2PIP関節背側脱臼用)ができる						
9回目	総復習						
10回目	復習						
11回目	復習						
12回目	復習						
13回目	復習						
14回目	復習						
15回目	試験						
準備学習 時間外学習	基本的な解剖学の知識、基礎的な柔道整復理論の知識習得のために自宅での学習が必要						
評価方法	平常点による評価、確認テスト						
受講生への メッセージ	固定具の作成だけでなく保管や管理も学んでください。						
【使用教科書・教材・参考書】							
教科書: 解剖学、柔道整復理論(改訂第7版)、配布プリント							

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	臨床実習 Clinical Practice	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	内村 陽一 ○
コース	共通	授業 形態	実技	総時間 (単位)	45 1	開講区分 曜日・時限	通年 金1、2、4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>体験型臨床実習に備えて、主訴及び現状歴・既往歴・家族歴・社会歴聴取のロールプレイ 施術録の説明・検査所見記載の実施、主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査、反射検査、運動機能検査の実施 主要関節の包帯被覆(テーピング)の実施 ※10回目講義と11回目講義の間に外部臨床実習を20時間実施 実務経験: 田口整骨院にて2年0か月その後うちむら整骨院を創業4年経過</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>主訴及び現状歴を把握することができる、既往歴・家族歴・社会歴を聴取することができる。施術録の説明・検査所見記載ができる。 主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査、反射検査、運動機能検査、超音波診断装置の理解と読解ができる 主要関節の包帯被覆(テーピング)ができる</p>							
授業計画・内容							
1回目	臨床実習について 外部実習に臨む心得を習得する(身嗜み・挨拶・言葉遣い) (座学)						
2回目	患者の誘導・施術室清潔保持の重要性・守秘義務について説明ができる (座学)						
3回目	医療面接についてオープン・クローズドクエッション、基本的傾聴、共感的態度が理解できる (座学)						
4回目	医療面接について位置感・距離感、メラビアン法則を理解できる (座学)						
5回目	施術録の記載(説明)・物理療法機器の使用(説明)ができる (座学)						
6回目	業務上の危機管理(リスクマネジメント、ヒヤリハット、医療事故と医療過誤)について理解できる (座学)						
7回目	触察とランドマーク・ROM、被覆包帯(テーピング)ができる						
8回目	肩関節・肘・手の評価(触診・ROM)、被覆包帯(テーピング)ができる						
9回目	骨盤帯・股関節の評価(触診・ROM)、被覆包帯(テーピング)ができる						
10回目	膝関節・足関節の評価(触診・ROM)、被覆包帯(テーピング)ができる						
11回目	外部実習を経て、経験した事を纏めてグループ内で症例(実習)報告することができる						
12回目	外部実習を経て、経験した事を纏めてグループ内で症例(実習)報告することができる						
13回目	身体計測(四肢長、四肢周径)ができる						
14回目	身体計測(四肢長、四肢周径)ができる						
15回目	総復習						
16回目	前半組実技試験・後半組筆記試験						
17回目	前半組実技試験・後半組筆記試験						
準備学習 時間外学習	基本的な解剖生理学、一般臨床医学、柔道整復学を自宅学習						
評価方法	臨床実習ガイドラインに則る						
受講生への メッセージ	臨床実習は卒業後に柔道整復師を業とするには重要な事を含んだ学習となります。患者との向き合い方から施術技術まで多岐に渡るため本格的な解剖生理学、一般臨床医学、柔道整復学を自宅学習でインプットして学内でアウトプットの練習、学外実習で経験したことを持ち帰り、自身の知識と技術の軌道修正を行ってください。						
【使用教科書・教材・参考書】							
解剖学・運動学・柔道整復理論・配布資料							

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	テーピング	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 実務経験	伊集院 英知 ○
	Taping	授業 形態	演習	総時間 (単位)	80 4	開講区分 曜日・時限	通年
コース	柔整スポーツ						木曜日 4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>テーピングの取り扱い方、管理方法、テーピング使用時に関する考え方、外傷に対するテーピング及び競技現場のコンディショニングの手法として多様されているスポーツテーピングの手法についても学びます。 実務経験: 整骨院勤務10年</p> <p>【到達目標】</p> <p>色々なテープ(伸縮、非伸縮)の特性を上手く利用したテーピングが行えるようになりコンディショニングに応じたテーピング法の選択が実践できるようになる</p>							

授業計画・内容	
1回目	テーピングの基礎理論について理解できる
2回目	テーピングの基本的用語と巻き方について理解できる
3回目	足関節の構造 足関節テーピングとアンダーラップが実践できる
4回目	足関節内返捻挫について 足関節ヒールロックテーピングが実践できる
5回目	足関節フィギュアエイトテーピング、クローズドバスケットウィーブテーピングが実践できる
6回目	ドレイクメソッドテーピングが実践できる
7回目	サッカースタイルテーピングが実践できる
8回目	足関節底屈背屈制限テーピングが実践できる
9回目	ストラッピング & ラッピングテーピングが実践できる
10回目	試験
11回目	ふくらはぎの痛みについて理解できる
12回目	アキレス腱とふくらはぎのテーピングについて実践できる
13回目	シンスプリントとは シンスプリントに対するテーピングが実践できる
14回目	足のつりのメカニズムについて理解できる
15回目	ハムストリングの肉離れに対するテーピングについて実践できる
16回目	足底筋膜炎について理解できる
17回目	足のアーチと痛みについて理解し、アーチのテーピングが実践できる
18回目	踵のテーピングが実践できる
19回目	外反母趾のテーピングが実践できる
20回目	学期末試験

21回目	膝の構造について理解し、ジャンパーズニー、オスグッドシュラッターのテーピングが実践できる
22回目	内側副靭帯損傷を理解しテーピングが実践できる
23回目	前十字靭帯と後十字靭帯のテーピングが実践できる
24回目	外側副靭帯のテーピングが実践できる
25回目	肩の構造について理解し、肩鎖関節に対するテーピングが実践できる
26回目	肩関節前方脱臼のテーピングが実践できる
27回目	原因不明の頸から背中中の痛みについて理解できる
28回目	頸のテーピングが実践できる
29回目	肩関節周囲炎について理解し、四十肩に対するテーピングが実践できる
30回目	試験
31回目	肘の構造について理解し、肘関節内側副靭帯のテーピングが実践できる
32回目	テニス肘と野球肘のテーピングが実践できる
33回目	肘関節過伸展防止のテーピングが実践できる
34回目	手の構造について理解し、手関節と母指MP関節屈曲制限のテーピングが実践できる1
35回目	母指MP関節屈曲制限のテーピングが実践できる2 母指MP関節伸展制限テーピングが実践できる
36回目	母指MP関節尺側部と中指MP関節伸展制限のテーピングが実践できる
37回目	PIP関節のテーピングが実践できる
38回目	腰の構造、腰痛のメカニズムを理解し、腰部のテーピングが実践できる
39回目	股関節の構造について理解し、股関節のテーピングを実践できる
40回目	試験
準備学習 時間外学習	人体の筋肉や骨格を解剖学的にイメージする事ができ外傷の状態をしっかり把握する事で巻き進む方向と強さを見極める。
評価方法	実技試験(100点満点)
受講生への メッセージ	少しでも多くの人々の体を触り何回もテーピングを繰り返す事が素早く綺麗に巻ける近道だと思います。一緒にたくさん練習しましょう!
【使用教科書・教材・参考書】	
テーピングのポイントはこれだ 最先端テーピング術 テーピングの新しい教科書 アスレチックテーピング 3D解剖学DVD	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	ケア&コンディショニング Care & Conditioning	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 実務経験	谷口 貴隆 ○
コース	柔整スポーツ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	80 4	開講区分 曜日・時間	通年 木曜2限
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>コンディショニングとは運動競技において最高の能力を発揮できるように精神面・肉体系・健康面などから状態を整えることをいいます。ケア・コンディショニングでは主に筋肉(身体)に対してストレッチング法やエクササイズ法を学びます。疲労軽減やスポーツ傷害の予防・改善、競技パフォーマンスの向上を目的とした実技習得を目指します。また、スポーツ選手に対して指導ができるような授業を実施します。</p> <p>実務経験: 2005年から佐賀北高校サッカー部のフィジカルコーチ 小学生～高校生を中心にトレーニング指導をして20年</p>							
【到達目標】							
<p>ストレッチング法やエクササイズ法を学び、実技を習得する 自分でケアをどのようにしたらよいか考えられるようになる (具体的目標)</p> <p>目標① 静的ストレッチングや動的ストレッチング、ペアストレッチングを部位別に正しくできる 目標② 体幹エクササイズを部位別、目的別に正しくできる 目標③ 目標①②を実践しながら、指導ができる</p>							
授業計画・内容							
1回目	ケアコンディショニングについて						
2回目	動的ストレッチング(胸部、背部、肩部)について実践できる						
3回目	動的ストレッチング(大腿部、下腿部)について実践できる						
4回目	静的ストレッチング(胸部、背部、肩部)について実践できる						
5回目	静的ストレッチング(大腿部、下腿部)について実践できる						
6回目	静的体幹エクササイズについて実践できる①						
7回目	静的体幹エクササイズについて実践できる②						
8回目	動的体幹エクササイズについて実践できる①						
9回目	動的体幹エクササイズについて実践できる②						
10回目	中間試験および振り返り						
11回目	体幹エクササイズについて実践できる 応用①						
12回目	体幹エクササイズについて実践できる 応用②						
13回目	体幹エクササイズについて実践できる 応用③						
14回目	体幹エクササイズについて実践できる 応用④						
15回目	ペアストレッチング(胸部、肩部)について実践できる						
16回目	ペアストレッチング(上背部、腰背部)について実践できる						
17回目	ペアストレッチング(大腿部前面)について実践できる						
18回目	ペアストレッチング(大腿部後面、下腿部)について実践できる						
19回目	ペアストレッチング(全身)について実践できる						
20回目	学期末試験						

21回目	頸部のストレッチ トリガーポイントテクニック(僧帽筋、肩甲挙筋、大小菱形筋、頭半棘筋、頭板状筋、胸鎖乳突筋)について実践できる
22回目	頸部外傷後のリハビリテーションと予防(ストレッチ、頸部から胸部の連携 筋力強化)肩関節、肩甲帯(触診)について実践できる
23回目	肩関節、肩甲帯のコンディショニング(モビライゼーション、ストレッチ、トリガーポイント、インナーマッスルトレーニング)について実践できる
24回目	体幹、骨盤帯のコンディショニング(脊柱、骨盤帯の触診、呼吸運動について、肋骨、脊柱のモビライゼーション)について実践できる
25回目	体幹、骨盤帯のコンディショニング(骨盤のモビライゼーション、ストレッチ、腰臀部のトリガーポイント、コアトレーニング)について実践できる
26回目	股関節、膝関節のコンディショニング(股、膝の機能解剖、モビライゼーション)について実践できる
27回目	股関節、膝関節のコンディショニング(ストレッチ、トリガーポイントテクニック) ACL損傷のテクニックについて実践できる
28回目	足関節のケア・コンディショニング(足関節、足部、足指のモビライゼーション・ストレッチ)について実践できる
29回目	足関節捻挫後のROM後のモビライゼーション(ライス、ロム、筋力、神経性協調性、関節不安定性テスト)について実践できる
30回目	肘、手、前腕、手指のケアコンディショニング(触診、モビライゼーション)について実践できる
31回目	野球肘の対応に必要な機能(内側防御機能、後方防御機能、手の機能)について説明できる
32回目	スポーツマッサージ(効果、目的、基本手技) ウォーミングアップ、クールダウン(目的、強度、注意点)について実践できる
33回目	スポーツマッサージ(首～肩、腰背部、臀部、大腿後面、大腿前面、大腿外側)について実践できる
34回目	スポーツマッサージ(大腿内側、下腿後面、下腿前面、足底、足背)について実践できる
35回目	スポーツマッサージ(前腕、上腕、手掌、手指、セルフマッサージ)について実践できる
36回目	下腿のスポーツ障害(アキレス腱周囲炎、シンスプリント、足底腱膜炎、外反母趾)について説明できる
37回目	肩部のスポーツ障害(リトルリーグズショルダー、ベネット損傷、ルーズショルダー)について説明できる
38回目	腰背部のスポーツ障害(筋筋膜性腰痛、分離症、分離すべり症) そのリハビリについて実践できる
39回目	膝関節のスポーツ障害(ACL損傷、MCL損傷、半月損傷) そのリハビリについて実践できる
40回目	後期定期試験
準備学習 時間外学習	自分自身でストレッチングやエクササイズを実践、習慣化することで、体の使い方や使用感、疲労感などを体感することができます。運動を生活に取り入れることでより健康的、積極的になることができます。施術を効率よく行なうには自主練習が必要になります。
評価方法	中間試験 (30%) 前期定期試験 (60%) 授業の取り組み (10%) 合計 (100%)
受講生への メッセージ	コンディショニングの理解を深めることで、トレーニング指導者としての幅が広がると思います。積極的に体を動かして楽しい授業と一緒に築いていきましょう！！
【使用教科書・教材・参考書】	
『トレーニング指導者テキスト 実技編』	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	手技療法Ⅰ Manual Therapy I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	井手 宏法 ○
コース	柔スポ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	40	開講区分	前期
					2	曜日・時間	水曜日・2時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>主に自身が現場で活用しているスポーツマッサージ・ストレッチングの手技を中心に実技を行い、安全に身体への施術を行える徒手技術を修得する。また、機能解剖学に基づいた筋肉へのアプローチを通して、様々な身体や筋肉に触れることに慣れていく。 実務経験：平成21年よりスポーツトレーナーとして約8年地域の方への指導を行う。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の構造を理解しスポーツマッサージやストレッチングの手技とをリンクさせる ・基本的なスポーツマッサージの手技が実践できる ・正しく安全に、決められた時間内で実践できる 							

授業計画・内容	
1回目	イントロダクション／手技療法の概要
2回目	スポーツマッサージの基礎知識を理解する
3回目	スポーツマッサージが実践できる(伏臥位：肩／腕／手)
4回目	スポーツマッサージが実践できる(伏臥位：背中／腰)
5回目	スポーツマッサージが実践できる(伏臥位：下肢)
6回目	スポーツマッサージが実践できる(仰臥位：頭頸部)
7回目	スポーツマッサージが実践できる(仰臥位：胸部／腹部)
8回目	スポーツマッサージが実践できる(仰臥位：股関節／膝関節／足関節牽引)
9回目	スポーツマッサージが実践できる(仰臥位：下肢)
10回目	スポーツマッサージの確認と評価
11回目	スポーツマッサージが実践できる(横臥位：上肢)
12回目	スポーツマッサージが実践できる(横臥位：下肢)
13回目	リフレクソロジーが実践できる(足部)
14回目	リフレクソロジーが実践できる(手拳部)
15回目	ストレッチングの基礎理論を理解する
16回目	パートナーストレッチングが実践できる(上肢)
17回目	パートナーストレッチングが実践できる(下肢)
18回目	総復習
19回目	学期末試験
20回目	テスト②
準備学習 時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・他の基礎教科(特に機能解剖学)の復習 ・授業内容の復習 ・スポーツマッサージを実践する
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実技テスト ・授業態度 ・出席状況
受講生への メッセージ	<p>アスリートへのパフォーマンス向上や疲労回復・傷害予防、一般の方への姿勢改善や痛みの軽減などを目的とした手段の一つに手技療法が存在します。本授業を通して、身体構造への理解を深め、正しく安全に各手技療法を実践できるように努めて行きましょう。</p>
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリニカルマッサージ 	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	レジスタンストレーニング Resistance Training	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	井手 宏法 ○
コース	共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	40 2	開講区分 曜日・時限	後期 水曜日・2時限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>講義と実技を繰り返し交ぜながら、レジスタンストレーニングの基礎と実践を学ぶ。 他の授業で学ぶ基礎知識(機能解剖学・生理学など)とリンクさせながら、多岐にわたる様々なレジスタンストレーニングのテクニックやプログラムデザインを理解し、自身もトレーニングを実践する。またトレーニングを実践指導できる知識とスキルを身につける。 実務経験: 平成21年よりスポーツトレーナーとして約6年地域の方への指導を行う。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>◎身体の使用部位とストレッチやトレーニング・エクササイズをリンクさせる ◎正しいフォームで自身が実践できる ◎正しく安全に指導できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	自己紹介・柔軟性を理解する
2回目	ストレッチングと柔軟性トレーニングを理解する
3回目	ストレッチングと柔軟性トレーニングを実践する
4回目	ウォーミングアップとクーリングダウンを理解する
5回目	自重エクササイズとスタビリティボールエクササイズを理解し実践する①
6回目	自重エクササイズとスタビリティボールエクササイズを理解し実践する②
7回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザインを理解する①
8回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザインを理解する②
9回目	レジスタンストレーニングのエクササイズテクニックを理解する
10回目	マシントレーニングを実践する(上半身)
11回目	マシントレーニングを実践する(下半身)
12回目	フリーウエイト(コアエクササイズ:上半身)を実践する①
13回目	フリーウエイト(コアエクササイズ:上半身)を実践する②
14回目	フリーウエイト(コアエクササイズ:下半身)を実践する③
15回目	フリーウエイト(コアエクササイズ:下半身)を実践する④
16回目	フリーウエイト(補助エクササイズ)を実践する⑤
17回目	全身トレーニング(パワークリーン)を実践する①
18回目	全身トレーニング(パワークリーン)を実践する②
19回目	学期末試験
20回目	振り返り
準備学習 時間外学習	◎他の基礎教科(機能解剖学や生理学など)の復習 ◎授業内容の復習 ◎トレーニングを実践する
評価方法	◎テスト ◎授業態度・レポート ◎出席状況
受講生への メッセージ	他の授業で同時に学んでいることもこの授業を理解する上でとても重要になりますので、復習を忘れずに、日々成長する態度で授業に臨んでほしいと思います。講義と実技を繰り返し交ぜながら進めていきたいと考えていますので、自身が動ける身体作り、トレーニングにも精進してください。一方通行にならないよう、皆さんとディスカッションができる授業にしたいと思っています。
【使用教科書・教材・参考書】	
『NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識(第2版)』	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	生理学Ⅱ Physiology	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経歴	自見英治郎/辻康夫 ○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	80 4	開講区分 曜日・時限	前期・後期 金曜1・2・3限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>ヒトはどうやって動くのか、痛みや温度などの感覚とは何なのか、ヒトはなぜまっすぐと立っているのか。神経系について基礎的なことを学び理解することで、正しい神経系の機能や構造について説明できるようになる。そして、そういった患者さんに遭遇した際に、その症状の原因がどこにあるのか説明できるようになる。</p> <p>実務経験 自見英治郎:1991年～1995年九州大学病院勤務 1996年～1998年歯科医院勤務 辻康夫:九州大学病院7年、てりは矯正歯科6年歯科臨床に携わる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>①神経系の伝導路について理解し説明できる ②反射の起こるメカニズムについて理解し説明できる ③感覚について理解し説明できる ④神経に障害が起こった際にどのようなことが起こると考えられるのか説明できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	神経系の基礎1 神経系の区分と特徴、神経系の存在する細胞について説明できる
2回目	神経系の基礎2 神経の基本的機能と静止膜電位について説明できる 前回の講義確認テスト1
3回目	神経系の基礎3 活動電位、閾刺激、全か無の法則について説明できる 前回の講義確認テスト2
4回目	神経系の基礎4 興奮の伝導と伝達について説明できる 前回の講義確認テスト3
5回目	中枢神経系の区分 脳室系、髄膜・脳脊髄液について説明できる 前回の講義確認テスト4
6回目	脳1 大脳、間脳の形態と機能について説明できる 前回の講義確認テスト5
7回目	脳2 脳幹、小脳、脊髄の形態と機能について説明できる 前回の講義確認テスト6
8回目	脊髄、脳の血管 脊髄の構造、脳の動脈・静脈について説明できる 前回の講義確認テスト7
9回目	伝導路1 反射の分類、下行伝導路について説明できる 前回の講義確認テスト8
10回目	伝導路2 上行伝導路について説明できる 前回の講義確認テスト9
11回目	脳神経1 脳神経Ⅰ～Ⅳの構造と機能について説明できる 前回の講義確認テスト10
12回目	脳神経2 脳神経Ⅴ～Ⅷの構造と機能について説明できる 前回の講義確認テスト11
13回目	脳神経3 脳神経Ⅸ～Ⅻの構造と機能について説明できる 前回の講義確認テスト12
14回目	まとめ 前回の講義確認テスト13
15回目	中間試験
16回目	脊髄神経1 脊髄神経の構造、頸神経叢、腕神経叢(筋皮神経、正中神経)について説明できる
17回目	脊髄神経2 腕神経叢(尺骨神経、橈骨神経)、胸神経について説明できる 前回の講義確認テスト13
18回目	脊髄神経3 腰神経叢、仙骨神経叢、デルマトームについて説明できる 前回の講義確認テスト14
19回目	神経系の機能1 反射と反射弓について説明できる 前回の講義確認テスト15
20回目	学期末試験

21回目	神経系の機能3 内臓反射、視床下部の機能について説明できる 前回の講義確認テスト17
22回目	神経系の機能4 運動の調整、脊髄反射について説明できる 前回の講義確認テスト18
23回目	神経系の機能5 脊髄反射、脳幹を中枢とする運動機能について説明できる 前回の講義確認テスト18
24回目	神経系の機能6 小脳の機能について説明できる 前回の講義確認テスト19
25回目	神経系の機能7 大脳基底核と新皮質連合野の統合について説明できる 前回の講義確認テスト20
26回目	神経系の機能8 新皮質運動野の機能について説明できる 前回の講義確認テスト21
27回目	神経系の機能9 新皮質連合野の統合機能について説明できる 前回の講義確認テスト22
28回目	まとめ1 前回の講義確認テスト23
29回目	まとめ2
30回目	試験
31回目	感覚器概論
32回目	皮膚の構造
33回目	皮膚感覚
34回目	視覚器の構造
35回目	視覚伝導路
36回目	平衡聴覚器の構造
37回目	平衡感覚、聴覚の伝導
38回目	嗅覚、味覚
39回目	まとめ、問題演習
40回目	試験・問題演習
準備学習 時間外学習	毎回授業内で、前回の内容の確認テストを実施しますので、講義の復習が必要です。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	栄養の消化・吸収や呼吸は、脊髄あまり意識して行っていることではありませんが、生命活動を行うためには必要不可欠です。メカニズムが破綻することは病気にもつながります。それぞれの流れに沿った講義になりますので、欠席をしないようにしてください。
	【使用教科書・教材・参考書】
解剖学	全国柔道整復学校協会 監修
生理学	全国柔道整復学校協会 監修 プリント教材□

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	高齢者・競技者の生理学的特徴 <small>Physiological characteristics of the elderly and athletes</small>	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	兼松 隆
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	40	実務経験	○
コース	共通					開講区分	前期
						曜日・時限	木曜 1・2限
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>高齢者・競技者の生理学的特徴を理解し、身体機能の維持・改善に役立つ知識を習得し臨床現場に活用できるようになる。 ※実務経験: 歯科医院に10年間勤務</p>							
【到達目標】							
<p>①高齢者の生理的特徴としての構造・機能を説明できる ②競技者に生理的特徴としての構造・機能を説明できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	高齢者・競技者の生理学的特徴 (overview) が説明できる
2回目	細胞・組織の加齢現象(細胞の加齢現象)が説明できる
3回目	細胞・組織の加齢現象(生体膜と細胞内小器官の変化、体内水分量の変化)が説明できる
4回目	高齢者の生理的特徴(加齢による臓器機能の変化: 神経系の変化)が説明できる
5回目	高齢者の生理的特徴(加齢による臓器機能の変化: 運動器系の変化、感覚器系の変化)が説明できる
6回目	高齢者の生理的特徴(加齢による臓器機能の変化: 循環器系の変化 1)が説明できる
7回目	高齢者の生理的特徴(加齢による臓器機能の変化: 循環器系の変化 2)が説明できる
8回目	高齢者の生理的特徴(加齢による臓器機能の変化: 呼吸器系の変化、消化器系の変化、皮膚の変化)が説明できる
9回目	発達と老化の理解(人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟)について説明できる
10回目	発達と老化の理解(老化に伴う心と身体の変化と日常生活、エイジング理論、高齢者と健康)について説明できる
11回目	高齢者の生理的特徴(高齢者に多い疾患・障害: フレイル)が説明できる
12回目	高齢者の生理的特徴(高齢者に多い疾患・障害: 認知症)が説明できる
13回目	高齢者の生理的特徴(高齢者に多い疾患・障害: 骨粗鬆症、転倒、睡眠障害)が説明できる
14回目	運動と加齢(歩行機能、平衡機能、反応時間)について説明できる
15回目	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化(小児から青年期の発育曲線・発育の特徴・呼吸循環系運動)が説明できる
16回目	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化(発育期の運動不足・過運動の影響、運動の発達と習熟)が説明できる
17回目	運動生理学の概要(運動が体に与える影響)について説明できる
18回目	競技者の生理学的特徴・変化(トレーニングによる筋・心肺機能の適応的変化・神経機構の変化・姿勢調節能力の変化)が説明できる
19回目	競技者の生理学的特徴・変化(眼球運動と姿勢制御)および高齢者や競技者が服用する薬と薬の働き方について説明できる
20回目	学期末試験
準備学習 時間が学習	今まで習った解剖学、生理学を含むため、それら学習内容の復習が必要です。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	患者さんとして接する高齢者や競技者の生理的な特徴を学びます。この科目をとおして学習したことが施術の一助となればよいです。今後の柔道整復師としての人生の為にも、本講義で必要な知識を身につけてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
生理学(全国柔道整復学校協会 監修) 及び 配布プリント 競技者の外傷予防(全国柔道整復学校協会 監修) 及び 配布プリント 柔道整復師と機能訓練指導(全国柔道整復学校協会 監修) 及び 配布プリント	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	高齢者・競技者の生理学的特徴	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 実務経験	宇部宮 美咲 ○
	Physiological characteristics of the elderly and athletes	授業 形態	講義	授業時間 (単位)	40 2	開講区分	前期
コース	柔整スポーツ					曜日・時限	月曜2限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>高齢者や発達途中の小児、また特殊なトレーニングを行う競技者の生理学的特徴について、学ぶ。 実務経験:九州大学病院、福岡赤十字病院、九州大学、一般歯科医院などに勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>高齢者、小児、そして競技者の生理学的特徴を説明できるようになる。 また、その知識を日常生活や臨床実習において活用できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	細胞・組織の加齢現象について説明できる
2回目	神経系の加齢変化について説明できる
3回目	運動器系の加齢変化について説明できる
4回目	感覚器系の加齢変化について説明できる
5回目	循環系・消化器系の加齢変化について説明できる
6回目	高齢者に多い疾患障害について説明できる
7回目	高齢者体験(実習)
8回目	高齢者体験(実習)
9回目	小児期から青年期の発達曲線について説明できる
10回目	小児期から青年期の呼吸系機能と運動について説明できる
11回目	小児期から青年期の循環系機能と運動について説明できる
12回目	運動の発達と習熟について説明できる①
13回目	運動の発達と習熟について説明できる②
14回目	競技者においてトレーニングによる筋機能の適応的変化について説明できる
15回目	競技者においてトレーニングによる心機能の適応的変化について説明できる
16回目	競技者においてトレーニングによる肺機能の適応的変化について説明できる
17回目	眼球運動と姿勢制御について説明できる
18回目	試験対策
19回目	試験対策
20回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	講義の中で可能な限り、理解し、必要であれば、自宅学習を行う。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	少ない時間でもよいので、毎回行う確認テストを中心に復習し、その都度知識を定着させていくことが望ましい。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書、講義資料(配布)	

2024年度 授業概要

学 科： 柔道整復科

科目名 (英)	病理学概論	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	角 静香
	Pathology					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	開講区分	前期・後期前半
					3	曜日・時限	月曜3限、木曜1・2限
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>病気になるとはどういうことなのか、どのような機序で病気が起こるのか。生理学の内容をもとに、そこが正常に機能しなくなることで、どのような結果が起こるのかを理解する。また説明できるようになる。</p> <p>実務経験：九大病院にて4年間歯科臨床に携わる。</p>							
【到達目標】							
<p>各分野において、どのような状態、機序、結果について説明できる。 外因(栄養障害、物理的外因、凍傷、化学的物質) 退行性病変(萎縮、脂肪変性、糖原変性、母斑、メラノーマ、黄斑、壊死、アポトーシスとの相違、老化、死)、循環障害(血栓、塞栓、浮腫)、退行性変性(移植)、炎症、免疫異常、アレルギー、腫瘍、先天性異常について説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 病理学の意義
2回目	病因(内因・外因)について説明できる
3回目	病因(内因・外因)について説明できる
4回目	病因(内因・外因)について説明できる 確認テスト
5回目	退行性病変について説明できる
6回目	退行性病変について説明できる
7回目	退行性病変について説明できる 確認テスト
8回目	代謝障害と疾病について説明できる
9回目	代謝障害と疾病について説明できる 確認テスト
10回目	循環障害について説明できる
11回目	循環障害について説明できる
12回目	循環障害について説明できる 確認テスト
13回目	進行性病変について説明できる
14回目	進行性病変について説明できる 確認テスト
15回目	炎症について説明できる
16回目	炎症について説明できる
17回目	炎症について説明できる 確認テスト
18回目	免疫異常・アレルギーについて説明できる
19回目	免疫異常・アレルギーについて説明できる
20回目	学期末試験
21回目	前期の復習
22回目	腫瘍について説明できる
23回目	腫瘍について説明できる
24回目	腫瘍について説明できる
25回目	先天性異常について説明できる
26回目	先天性異常について説明できる
27回目	先天性異常について説明できる
28回目	病理学全範囲の復習①
29回目	病理学全範囲の復習②
30回目	定期試験
準備学習 時間外学習	病理学は正常でない状態を意味するため、正常である生理学の理解が不可欠です。生理学の復習が必要です。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	病気の原因やその機序を学んでいく科目です。理解を深めるためにも正常な状態をきちんと知ることが大切です。毎回の授業はつながりがあるので、欠席のないよう注意してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
病理学 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	一般臨床医学	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	八谷 祥
	Medical Science Lectures					実務経験	○
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	80	開講区分	通年
コース	午前集中				4	曜日・時限	火曜3限・木曜3限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>人における内科的障害についての診断の基礎を学び、各疾患においての異常症状について知識の修得を行い、正常、異常が判断できるようになり、本講義終了時には各々の項目において説明できるようになる。 実務経験：社会医療法人 大成会福岡記念病院に所属し2年間、従事している。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>内容は多岐にわたるが、診断重要点を理解しそれぞれの疾患について知識を深め、説明できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	診察概論・医療面接について説明できる
2回目	体格・体型・体位・姿勢について説明できる
3回目	精神状態・異常運動・麻痺・運動失調について説明できる
4回目	歩行の異常・皮膚の状態について説明できる
5回目	頭部・顔面の視診について説明できる
6回目	胸部・四肢の視診について説明できる
7回目	打診について説明できる
8回目	聴診(肺・心臓)について説明できる
9回目	聴診(腹部)について説明できる
10回目	触診①について説明できる
11回目	触診②・生命徴候について説明できる
12回目	感覚検査・反射検査・代表的な臨床症状について説明できる
13回目	呼吸器疾患①について説明できる
14回目	呼吸器疾患②について説明できる
15回目	呼吸器疾患③について説明できる
16回目	循環器疾患①について説明できる
17回目	循環器疾患②について説明できる
18回目	循環器疾患③について説明できる
19回目	前期期末試験前まとめ
20回目	学期末試験

21回目	消化器疾患①について説明できる
22回目	消化器疾患②について説明できる
23回目	消化器疾患③について説明できる
24回目	代謝疾患について説明できる
25回目	内分泌疾患①について説明できる
26回目	内分泌疾患②について説明できる
27回目	血液疾患①について説明できる
28回目	血液疾患②について説明できる
29回目	腎尿路疾患①について説明できる
30回目	腎尿路疾患②について説明できる
31回目	神経疾患①について説明できる
32回目	神経疾患②について説明できる
33回目	神経疾患③について説明できる
34回目	感染症について説明できる
35回目	膠原病①について説明できる
36回目	膠原病②について説明できる
37回目	一般臨床医学総まとめ①
38回目	一般臨床医学総まとめ②
39回目	後期期末試験前まとめ
40回目	後期期末試験・解説
準備学習 時間外学習	内容は多岐にわたるため、毎回の復習を欠かさないでください。たとえ短時間の復習でも学習内容の記憶に関して大いに貢献します。反対に全く復習しないと、驚くほど速やかに記憶は失われ授業に参加した意味もなくなります。
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	疾患、病気への理解をするためには基本的な症状などが大切である。、臨床上来院される患者の中には内科的疾患をもつ方もおられる。外傷、障害以外で患者の変化にいち早く気づき、医科との連携をするために必要な知識である為、自宅学習をすることが望ましい。
【使用教科書・教材・参考書】	
一般臨床医学 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	一般臨床医学	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	小原 直
	Medical Science Lectures					実務経験	○
コース	柔整スポーツ学科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	80 4	開講区分	前期・後期
						曜日・時限	火曜3・4限(隔週)
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>各疾患に対して、その特徴や症状を理解する。またその回復経過、対処法を学び、適切な説明ができるようになる。 機能に異常が出た場合、身体にどのような症状が現れるのか理解をしてほしい。疾患については、呼吸器・循環器・消化器等、それぞれの疾患を説明していく。 実務経験：内科医として44年今現在下関市の病院勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>内科診断学&内科学基礎を学ぶ</p>							

授業計画・内容	
1回目	医療面接 現病歴 主訴 既往歴等を患者から引き出すことができる
2回目	視診 体型 体格 体位 意識レベル等を診ることができる
3回目	視診 知能 精神状態 異常運動を診ることができる
4回目	視診 不随意運動 異常歩行を診ることができる
5回目	視診 皮膚の病的な状態を診ることができる
6回目	生命徴候 体温 血圧 脈等を診ることができる
7回目	打診 胸部&心臓&腹部の打診を覚えることができる
8回目	聴診 心臓&肺&腹部の聴診を覚えることができる
9回目	聴診 腹部血管雑音等を覚えることができる
10回目	表在知覚の分布を覚えることができる
11回目	深部腱反射の仕方と意義を覚えることができる
12回目	病的な反射やクローヌスを覚えることができる
13回目	代表的な臨床症状 発熱 出血傾向 リンパ節腫大等の病的な意義について調べることができる
14回目	呼吸器疾患 上気道炎&肺炎&ウイルス性肺炎&コロナ感染症について学ぶことができる
15回目	呼吸器疾患 肺結核 肺癌 等について学ぶことができる
16回目	呼吸器疾患 気管支喘息 自然気胸等について学ぶことができる
17回目	呼吸器疾患 肺塞栓症等について学ぶことができる
18回目	循環器疾患 症状や先天性心疾患について学ぶことができる
19回目	循環器疾患 狭心症&心筋梗塞について学ぶことができる
20回目	学期末試験

21回目	循環器疾患 不整脈や大動脈や中小動脈疾患について学ぶことができる
22回目	消化器疾患 食道&胃&十二指腸疾患について学ぶことができる
23回目	消化器疾患 肝&胆&膵疾患について学ぶことができる
24回目	消化器疾患 虫垂炎&大腸疾患&腸閉塞等について学ぶことができる
25回目	内分泌代謝疾患 高脂血症&高尿酸血症&糖尿病について学ぶことができる
26回目	内分泌疾患 脳下垂体疾患について学ぶことができる
27回目	内分泌疾患 甲状腺&副腎&副甲状腺疾患について学ぶことができる
28回目	血液造血器疾患 貧血の種類 や白血病について学ぶことができる
29回目	血液造血器疾患 悪性リンパ腫や出血傾向をきたす疾患について学ぶことができる
30回目	腎尿路疾患 糸球体腎炎やネフローゼ症候群 慢性腎臓病について学ぶことができる
31回目	腎尿路疾患 急性腎不全&慢性腎不全や泌尿器科的疾患について学ぶことができる
32回目	神経疾患 脳血管障害&脳腫瘍について学ぶことができる
33回目	神経疾患 変性疾患や感染性神経疾患について学ぶことができる
34回目	神経疾患 末梢神経疾患やパーキンソン病やアルツハイマー型認知症について学ぶことができる
35回目	ウイルス感染一般&エイズ&コロナ感染症について学ぶことができる
36回目	皮膚感染症や細菌感染について学ぶことができる
37回目	慢性関節リウマチ&SLE&強皮症について学ぶ(膠原病)ことができる
38回目	多発性筋炎&シェーグレン症候群&パーチェット病について学ぶ(膠原病)ことができる
39回目	結節性多発性動脈炎&リウマチ性多発筋痛症&アナフィラキシーショックについて学ぶことができる
40回目	期末試験
準備学習 時間外学習	解剖学を復習して下さい。
評価方法	4択式マークシート方式試験100問のうち50問は小テストより出題 年2回
受講生への メッセージ	国家試験対策に徹します。□
【使用教科書・教材・参考書】	
講義プリント、一般臨床医学 全国柔道整復学校協会 監修	

21回目	各論:脳神経外科疾患について説明できる。その1
22回目	各論:脳神経外科疾患について説明できる。その2
23回目	各論:心臓血管外科疾患について説明できる。その1
24回目	各論:心臓血管外科疾患について説明できる。その2
25回目	各論:呼吸器外科疾患について説明できる。
26回目	各論:腹部の外科疾患について説明できる。その1
27回目	各論:腹部の外科疾患について説明できる。その1
28回目	各論:肝臓,胆道系の外科疾患について説明できる。
29回目	各論:甲状腺,乳腺外科疾患について説明できる。総復習とオリジナルテスト
30回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	事前予習ではなく復習が必要不可欠である為。自宅での学習をしっかりと行ってください。復習も講義後、速やかに要点をチェックするように心がけてください。また、講義前に教科書を読んだだけではわかりにくい内容もあると思います。このため、復習に重点を置いて学習してください。復習は最低、講義プリントの再チェック,該当範囲の教科書のチェック,および講義小テストのチェックを行ってください。
評価方法	学期末試験 (100%)により評価する。
受講生への メッセージ	日常生活で見かける外科的疾患は癌などの腫瘍や外傷などに触れることがあるかと思います。医療人を目指すにあたり、これらの知識を身につけておくことは将来、きっと役に立つと思います。頑張ってください！
【使用教科書・教材・参考書】	
講義プリント, 外科学 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科： 柔道整復科

科目名 (英)	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	齊藤貴文/岡真一郎
						実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	80 4	開講区分	午前集中コース
						曜日・時限	火曜日・1限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>リハビリテーション医学は、患者のもつあらゆる障害に対し総合的に対処していくものである。医師だけで行えるものではなく、理学療法士、作業療法士をはじめとした多くの専門職が力を合わせて行っていかなければならない。柔道整復師もその一員であることから、リハビリテーション医学の基本理念を理解し、その実践に必要な知識、技術を学び説明ができるようになる。</p> <p>実務経験 齊藤貴文：クリニックにて臨床経験5年 岡真一郎：整形外科併設のクリニックで7年勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>①リハビリテーションの理念、対象者と障害者の実態、障害の階層とアプローチを説明できる。 ②リハビリテーションの評価学を説明できる。 ③リハビリテーションの障害学を説明できる。 ④リハビリテーションの治療学を説明できる。 ⑤リハビリテーション関連職種を説明できる。 ⑥理学療法、作業療法、言語聴覚療法、補装具について説明できる。 ⑦高齢者のリハビリテーションについて説明できる。 ⑧神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。 ⑨脊髄損傷のリハビリテーションについて説明ができる。 ⑩内部障害リハビリテーションについて説明ができる。 ⑪運動器疾患のリハビリテーションについて説明ができる。 ⑫リハビリテーションの福祉と障がい者スポーツについて説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	リハビリテーションの理念について説明できる。
2回目	リハビリテーションの対象と障害者の実態について説明できる。
3回目	障害の階層とアプローチについて説明できる。
4回目	ICD、ICIDHについて説明できる。
5回目	ICFについて説明できる。
6回目	チームアプローチについて説明できる。
7回目	リハビリテーション評価学Ⅰについて説明できる。
8回目	リハビリテーション評価学Ⅱについて説明できる。
9回目	リハビリテーション評価学Ⅲについて説明できる。
10回目	リハビリテーション障害学Ⅰについて説明できる。
11回目	リハビリテーション障害学Ⅱについて説明できる。
12回目	リハビリテーション障害学Ⅲについて説明できる。
13回目	リハビリテーション治療学Ⅰについて説明できる。
14回目	リハビリテーション治療学Ⅱについて説明できる。
15回目	リハビリテーション治療学Ⅲについて説明できる。
16回目	リハビリテーション医学の関連職種Ⅰについて説明できる。
17回目	リハビリテーション医学の関連職種Ⅱについて説明できる。
18回目	国家試験問題解説
19回目	試験対策
20回目	学期末試験

21回目	リハビリテーションの治療技術(理学療法)
22回目	リハビリテーションの治療技術(理学療法:運動療法)
23回目	リハビリテーションの治療技術(理学療法:物理療法)
24回目	リハビリテーションの治療技術(作業療法、言語聴覚療法)
25回目	リハビリテーションの治療技術(補装具:装具、義肢、歩行補助具、車いす、自助具)
26回目	リハビリテーションの治療技術(臨床実習ケーススタディ)
27回目	高齢者のリハビリテーション
28回目	神経疾患(脳卒中、パーキンソン病)の障害とリハビリテーション
29回目	脊髄損傷の障害とリハビリテーション
30回目	肢体不自由児, 知的障害の病態とリハビリテーション
31回目	内部障害の病態とリハビリテーション
32回目	運動器のリハビリテーション(骨折の治療と後療法)
33回目	骨粗鬆症、捻挫の病態とリハビリテーション
34回目	上肢損傷後症候群、下肢損傷後症候群の病態とリハビリテーション
35回目	頸肩腕症候群の病態とリハビリテーション
36回目	腰痛症の病態とリハビリテーション
37回目	肋骨骨折・アキレス腱断裂へのアプローチ
38回目	リハビリテーションの福祉、障がい者スポーツ
39回目	リハビリテーションの実際(ICFモデルを用いたケーススタディ)
40回目	筆記試験・解説
準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習復習をすること。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	リハビリテーション医学を通して、治療医学と医学的リハビリテーションの違いと位置づけを学んでください。
【使用教科書・教材・参考書】	
リハビリテーション医学 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	北村匡大
						実務経験	○
コース	柔整スポーツ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	80 4	開講区分	前期・後期
						曜日・時限	火3・4限(隔週)
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>リハビリテーション医学は、患者のもつあらゆる障害に対し総合的に対処していくものである。昨今、医師、理学療法士、作業療法士、看護師、言語聴覚士等多くの専門職が力を合わせて患者へのニーズに対応し、支援していくチーム医療が求められる。柔道整復師もそのチームの一員であることため、リハビリテーション医学の理念、対象者、障害の実態を学び、評価、治療の知識、技術の必要性を理解する。 実務経験: : 2003年より急性期・回復期併設の病院で整形外科・脳神経外科・心臓外科・回復期リハビリテーション科におけるリハビリテーション診療に7年勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>①リハビリテーションの理念、対象者と障害者の実態、障害の階層とアプローチを説明できる。 ②リハビリテーションの評価学、障害学、治療学を説明できる。 ③リハビリテーション関連職種、高齢者のリハビリテーション、リハビリテーションの治療技術(理学療法、作業療法、言語聴覚療法、補装具)を説明できる。 ④高齢者(フレイル、医療制度、介護予防)、中枢疾患(脳卒中、パーキンソン病)、運動器疾患(骨折、捻挫)をのリハビリテーションを説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	リハビリテーションの理念、リハビリテーションの対象と障害者の実態を説明できる
2回目	障害の階層を説明できる
3回目	障害のへアプローチを説明できる
4回目	リハビリテーション評価学1について説明できる
5回目	リハビリテーション評価学2について説明できる
6回目	リハビリテーション評価学3について説明できる
7回目	リハビリテーション障害学1について説明できる
8回目	リハビリテーション障害学2について説明できる
9回目	リハビリテーション障害学3について説明できる
10回目	リハビリテーション障害学4について説明できる
11回目	リハビリテーション治療学1について説明できる
12回目	リハビリテーション治療学2について説明できる
13回目	リハビリテーション治療学3について説明できる
14回目	リハビリテーション治療学4について説明できる
15回目	リハビリテーション医学の関連職種1について説明できる
16回目	リハビリテーション医学の関連職種2について説明できる
17回目	高齢者のリハビリテーション1について説明できる
18回目	高齢者のリハビリテーション2について説明できる
19回目	高齢者のリハビリテーション3について説明できる
20回目	学期末試験

21回目	リハビリテーション治療技術1について説明できる
22回目	リハビリテーション治療技術2について説明できる
23回目	リハビリテーション治療技術3について説明できる
24回目	リハビリテーション治療技術4について説明できる
25回目	リハビリテーション治療技術5について説明できる
26回目	リハビリテーション治療技術6について説明できる
27回目	リハビリテーション治療技術7について説明できる
28回目	リハビリテーション治療技術8について説明できる
29回目	高齢者のリハビリテーション1について説明できる
30回目	高齢者のリハビリテーション2について説明できる
31回目	高齢者のリハビリテーション3について説明できる
32回目	中枢疾患のリハビリテーション1について説明できる
33回目	中枢疾患のリハビリテーション2について説明できる
34回目	中枢疾患のリハビリテーション3について説明できる
35回目	中枢疾患のリハビリテーション4について説明できる
36回目	運動器疾患のリハビリテーション1について説明できる
37回目	運動器疾患のリハビリテーション2について説明できる
38回目	運動器疾患のリハビリテーション3について説明できる
39回目	運動器疾患のリハビリテーション4について説明できる
40回目	学期試験
準備学習 時間外学習	教科書、資料を持参ください。 医学用語を忘れないように、復習を徹底しましょう。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	リハビリテーションにおける評価と治療の関係を理解できると、リハビリテーションの必要性を知ることができます。 反復学習を繰り返し、理解できるようにしましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
リハビリテーション医学 全国柔道整復学校協会 監修 プリント教材	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復術の適応 Adapting to Judo Therapy	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	今村 公一
						実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	40	開講区分	後期
					2	曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師が整復を行うに当たり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し柔道整復術を適切に実施できる能力を身につけるようになる。 ※実務経験: 外科学会専門医として外科診療に従事している。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>適切な柔道整復術を行うため、柔道整復が適応されるか否かの判断能力を養い、判断基準を説明できるようになる。また、柔道整復師で扱うべきでない急性き疾患の判断根拠を提示できることを目標とする。</p>							

授業計画・内容	
1回目	救急処置, 基本的なバイタルサインと正常値について説明できる。各部位の疼痛疾患を列挙できる。
2回目	腰痛疾患を説明できる。転移性脊椎腫瘍について説明できる。
3回目	化膿性炎症疾患, 痛風, 偽性痛風について説明できる。
4回目	軟部組織の圧迫損傷, 血流障害を伴う損傷について説明できる。
5回目	脱臼, 末梢神経の損傷疾患, その1 について説明できる。
6回目	末梢神経の損傷疾患, その2 について説明できる。
7回目	脱臼骨折疾患について説明できる。
8回目	外出血を伴う損傷について説明できる。
9回目	総復習, オリジナルテスト
10回目	病的骨折と病的脱臼 につき, 例をあげたりして説明できる。
11回目	意識障害を伴う損傷 その1 について説明できる。
12回目	意識障害を伴う損傷 その2 について説明できる。
13回目	意識障害を伴う損傷を中心にこれまでの総復習。
14回目	頸椎の損傷 その1 について説明できる。
15回目	頸椎の損傷 その2 について説明できる。
16回目	胸椎疾患, 脊椎疾患について説明できる。
17回目	高エネルギー外傷について説明できる。
18回目	DIC, 深部静脈血栓症について説明できる。
19回目	総復習, オリジナルテスト
20回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	内臓損傷、外科的疾患、骨折、脱臼など様々な疾患、損傷についての知識が必要な為、事前予習が必要である。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	将来の現場で柔道整復術が適応かどうかを見極めるための知識を習得する。患者さんにとって最善の選択をする柔道整復師になれるように学習しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
医療の中の柔道整復 南江堂	

2024年度 授業概要

学 科： 柔道整復科

科目名 (英)	社会保障制度 Social Security System	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	内村 陽一
						実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	20	開講区分	後期後半
					1	曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>社会報奨制度と職業倫理を学ぶ。国家試験合格の為の勉強はもちろんだが学生が資格取得後に接骨院で勤務する際即戦力となり、また倫理観を持ち合わせた人物となるように学習・指導を行う。常に変化していく社会・社会制度のことを学習し常に情報を集めるように習慣付けることも指導していく。更に受身型の授業だけでなく自分たちで考える習慣を身に着けるという目的でグループディスカッションも多用している。</p> <p>実務経験：田口整骨院にて2年9か月その後 うちむら接骨院を開業4年経過</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>柔道整復師として必要な保険の仕組みや施術の流れを理解する。また、日本の社会保障制度についても理解する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	社会保障制度
2回目	医療保険制度
3回目	療養費
4回目	障害者保障
5回目	児童福祉法
6回目	感染症対策
7回目	医療の質と安全の確保
8回目	医事紛争・医療事故
9回目	総復習
10回目	定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	前回の授業後に、学んだ事・気づいたこと・疑問などを提出する。
評価方法	定期試験筆記100%
受講生への メッセージ	柔道整復師に必要な知識としての社会保障制度を理解する。
【使用教科書・教材・参考書】	
社会保障制度と柔道整復師の職業倫理	

2024年度 授業概要

学 科： 柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復学Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	吉原 稔
	Judo TherapyⅢ					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	80	開講区分	前期・後期
					4	曜日・時限	火曜1・2・3限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷に対しての基礎的な知識から、臨床的な知識を教科書の内容をもとに指導する 実務経験：平成22年から整形外科で約8年勤務し外傷の処置を経験し、6年間の整骨院勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷の基礎的な知識を取得し、実際にその知識を使用することができる</p>							

授業計画・内容	
1回目	骨盤骨折の発生機序と症状が説明できる
2回目	骨盤骨折の治療と後療法が説明できる
3回目	大腿骨近位骨折の発生機序と症状が説明できる
4回目	大腿骨近位骨折の治療と後療法が説明できる
5回目	大腿骨骨幹部骨折の発生機序と症状が説明できる
6回目	大腿骨骨幹部骨折の治療と後療法が説明できる
7回目	大腿骨遠位骨折の発生機序と症状が説明できる
8回目	膝蓋骨の発生機序と症状と後療法が説明できる
9回目	脛骨近位骨折の発生機序と症状と後療法が説明できる
10回目	下腿中央、遠位骨折の発生機序と症状と後療法が説明できる
11回目	下腿疲労骨折の発生機序と症状、治療、後療法が説明できる
12回目	下腿骨果部骨折の発生機序と症状が説明できる
13回目	下腿骨果部骨折の治療と後療法が説明できる
14回目	足根骨骨折の発生機序と症状が説明できる
15回目	足根骨骨折の治療と後療法が説明できる
16回目	中足骨骨折の発生機序と症状が説明できる
17回目	中足骨骨折の治療法と後療法が説明できる
18回目	骨盤骨折から膝蓋骨骨折までの復習し、それぞれの基礎知識が説明できる
19回目	下腿骨骨折から足趾骨折までの復習し、それぞれの基礎知識が説明できる
20回目	学期末試験

21回目	股関節脱臼の発生機序と症状が説明できる
22回目	股関節脱臼の治療と後療法が説明できる
23回目	膝関節脱臼の発生機序と症状と治療、後療法が説明できる
24回目	膝蓋骨脱臼の発生機序と治療と後療法が説明できる
25回目	足趾脱臼の発生機序と症状が説明できる
26回目	股関節の軟部組織損傷の発生機序、治療と後療法が説明できる
27回目	大腿部の軟部組織損傷の発生機序と症状、治療法が説明できる
28回目	膝関節の靭帯損傷、軟部組織損傷症状と発生機序と治療法が説明できる
29回目	膝関節の靭帯損傷、軟部組織損傷症状と発生機序と治療法が説明できる
30回目	膝関節前方軟部組織損傷の発生機序と症状と後療法が説明できる
31回目	膝周囲の軟部組織損傷の発生機序と症状、治療、後療法が説明できる
32回目	下腿の軟部組織損傷の発生機序と症状が説明できる
33回目	下腿骨疲労骨折の治療と後療法が説明できる
34回目	足関節周囲の発生機序と症状が説明できる
35回目	足関節周囲の治療と後療法が説明できる
36回目	足関節周囲の発生機序と症状が説明できる
37回目	足部の軟部組織損傷の治療法と後療法が説明できる
38回目	股関節、膝関節、足部の脱臼の復習し、それぞれの基礎知識が説明できる
39回目	股関節～足部の軟部組織損傷までの復習し、それぞれの基礎知識が説明できる
40回目	期末試験
準備学習 時間外学習	毎回の授業内容をその日のうちに復習する事が大切です。理解度チェック問題で自身の理解度を認識して復習に生かしましょう。
評価方法	学期末試験
受講生への メッセージ	柔道整復師の業務の中でも多く遭遇する疾患を学んでいきます。また国家試験では必須の知識です。将来の役に立つ知識と一緒に学んでいきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復学・理論編第7版	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	外傷の保存療法 Conservative Therapy of External Injuries	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	内村 陽一
						実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	20 1	開講区分	後期・後半
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>外傷に対する保存療法と観血療法の鑑別、それぞれの治療法の特徴について学ぶ。 1年生で学んだ範囲である骨折の総論の復習を行うことで国家試験に対する対応力を身につける。 実務経験：田口整骨院にて2年9か月その後うちむら接骨院を開業4年経過</p>							
【到達目標】							
外傷に対する保存療法、観血療法の鑑別と特徴を理解し説明できる。治療経過を理解し治療目標の設定が適切にできる。							

授業計画・内容	
1回目	外傷保存の概要を理解する。
2回目	外傷に対する保存療法と観血療法の鑑別について説明できる。
3回目	観血療法の特徴を理解し説明できる。
4回目	保存療法の特徴と関連する後療法について理解する。
5回目	保存療法の特徴と関連する後療法について説明できる。
6回目	骨折・脱臼・軟部組織損傷の固定について理解する。
7回目	骨折・脱臼・軟部組織損傷の固定について理解し説明できる。
8回目	本講義の範囲が説明できる。
9回目	問題演習
10回目	試験・試験解説
準備学習 時間外学習	1年生で学んだ柔道整復学(特に総論)の復習、授業後の復習を行い、知識の定着を図ってほしい。
評価方法	所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験(マークシート)において評価を行う。 評価は100点満点法を用い、60点以上を合格とする。
受講生への メッセージ	外傷の治療法は保存療法と観血療法に大別する。柔道整復師が行えるのは保存療法のみであるため、保存と観血の鑑別を行えることは必須である。 今後、資格取得後勤務した際、自身の身を守るうえで大切になってくるためしっかり学んでいただきたい。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復学理論編第7版、配布プリント	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	臨床柔道整復学 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	吉原 勉
	Clinical Judo Therapy I					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90	開講区分	前期・後期
					4	曜日・時限	金曜 1・2・3限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>臨床柔道整復学では临床上多く発生する、上肢骨折・脱臼を中心に各論における知識の習得を目指しながら、臨床の場により近い意識を持たせる。 実務経験 臨床経験38年 1986年～1991年 小山接骨院にて施術に関わり、1992年よりよしはら接骨院開業施術に関わり現在に至る。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>上肢骨折・脱臼の知識を臨床現場にて役立て施術を行えるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	上腕骨顆上骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
2回目	上腕骨外顆骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
3回目	上腕骨内側上顆骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
4回目	前腕両骨後方脱臼の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
5回目	前腕両骨前方脱臼・側方脱臼・分散脱臼の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
6回目	橈骨近位端部骨折(骨頭骨折・頸部骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
7回目	橈骨頭部単独脱臼・肘内障の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
8回目	肘頭骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
9回目	橈骨骨幹部骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
10回目	ガレージ骨折・尺骨骨幹部骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
11回目	モンテギア骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
12回目	橈尺両骨骨幹部骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
13回目	コーレス骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
14回目	スミス・バートン・ショウファー骨折・骨端線離脱の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
15回目	遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
16回目	舟状骨骨折・三角骨骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
17回目	有鉤骨・豆状骨・月状骨・大菱形骨・有頭骨骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
18回目	総復習
19回目	試験
20回目	学期末試験

21回目	中手骨部の骨折(骨頭・頸部・骨幹部骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
22回目	第1中手骨基底部分骨折(ベネット・ローランド骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
23回目	指骨骨折(基節・骨幹部・骨頭・基部骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
24回目	末節骨骨折・マレットフィンガーの症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
25回目	月状骨脱臼・月状骨周囲の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
26回目	中手骨脱臼(CM/MP/MP以外)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
27回目	指骨脱臼(PIP/DIP)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
28回目	肋骨骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
29回目	胸骨骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
30回目	胸椎骨折・胸腰椎移行部骨折の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
31回目	腰椎骨折(椎体圧迫・チャンス・破裂・横突起骨折)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
32回目	肩部の軟部組織損傷(筋・腱損傷/上腕二頭筋長頭腱損傷)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
33回目	肩部のスポーツ損傷(ベネット・SLAP損傷)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
34回目	肩部インピンメント症候群・リトルリーガー肩の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
35回目	肩部不安定症・末梢N障害・橈骨N・尺骨N損傷・五十肩の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
36回目	肘部の軟部組織損傷(靭帯損傷・野球肘)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
37回目	肘部の軟部組織損傷(テニス肘・上顆炎・その他の疾患)の症状・鑑別・治療法を理解し説明できる様になる
38回目	総復習
39回目	試験
40回目	試験解説
41回目	特別講義
42回目	特別講義
43回目	特別講義
44回目	特別講義
45回目	特別講義
準備学習 時間外学習	柔道整復学理論編、実技編の予習・復習を行う。
評価方法	筆記試験
受講生への メッセージ	臨床に関わり、国家試験対策としても重要な科目であるため、欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復学理論編第7版・柔道整復学実技編第2版・解剖学・包帯学・国家試験過去問題集	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	競技者の外傷予防 Injury Prevention for Athletes	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	内村 陽一
						実務経験	○
コース	共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	40	開講区分	後期
					2	曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>日常業務で患者を危険に曝さないために必要な能力を養うため、外傷に類似した症状を示す疾患の判別や外傷に潜んでいる危険な徴候を理解し、本講義終了時には各項目において説明できるようになる。 実務経験：田口整骨院にて2年9か月その後うちむら接骨院を開業4年経過</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>①臨床所見から、施術に適する損傷と適さない損傷を的確に判断できるようになる。 外傷予防に必要な知識と方法を理解し、安全に外傷予防としての柔道整復術を提供するための能力を身につける。 ② ③柔道整復学の特徴、限界を知り、最適な治療環境が選択できるよう支援できるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	外傷予防(総論)を理解する 柔道整復理論第7版P137～p145
2回目	高齢者・競技者に好発する外傷について説明できる(発生・特徴・好発・表皮解剖など)
3回目	運動のメリット・デメリット・筋疲労について説明できる P1 ～ P12
4回目	運動と呼吸・循環について説明できる P12 ～ P19
5回目	運動とホルモン・運動生理学的特徴について説明できる P20 ～ P25
6回目	競技者の外傷予防・直接的誘発要因について説明できる P27 ～ P37
7回目	外傷の予防対策・全身関節弛緩性テストについて説明できる P39 ～ P41
8回目	筋タイトネステスト・アライメント測定について説明できる P41 ～ P44
9回目	外傷予防のコンディショニングの方法・徒手抵抗ストレッチングについて説明できる P45 ～ P52
10回目	パートナーストレッチング・下腿ストレッチングについて説明できる P53 ～ P59
11回目	①～⑩復習 演習問題
12回目	スポーツマッサージの実際について説明できる P60～ P64
13回目	スポーツテーピングの方法について説明できる 足関節・膝関節 P64 ～ P75
14回目	競技における伸縮テーピングについて説明できる P76 ～ P85
15回目	外傷予防トレーニングについて説明できる P85 ～ P94
16回目	柔道における肩関節の外傷予防、水泳における体幹の障害予防について説明できる P97 ～ 105
17回目	バスケットボールにおける膝関節の外傷予防、サッカーにおける足関節の外傷予防について説明できる P108 ～ 116
18回目	成長期の・高齢者外傷予防について説明できる P121 ～ 130
19回目	高齢者・競技者の外傷予防についてのまとめを説明できる P102 ～ 130
20回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	今まで柔道整復理論で得た知識を活用する授業であるため、復習が必要である。また柔道整復学の復習も必須である。
評価方法	筆記試験(100%)
受講生への メッセージ	接骨院・整骨院に就職して関わる患者さんの知識としてとても重要です。正しく対応することが出来なければ、患者さんが不利益を被ることになります。欠席など無いように受講してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復理論編・理論編(第7版)/ 競技者外傷予防 全国柔道整復学校協会 監修 柔道整復実技 全国柔道整復学校協会 監修	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復実技 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	齊藤 智仁
	Advanced Judo Therapeutic Lab I					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 3	開講区分	通年
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>各疾患の理論を説明し、理解が得られたところで実技指導を行う。その後、実技のグループ・ペアに分かれて臨床症状及び整復前の確認、整復法、整復後の確認、固定法を学ぶ。 実務経験：整骨院・整形外科併設整骨院にて6年勤務</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 臨床に活用できる技術を取得する。 2. 実際の患者と想定しながら接し、気を配り真摯な態度で接することができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	肩鎖関節上方脱臼の整復について実践できる
2回目	肩鎖関節上方脱臼の整復について実践できる
3回目	肩鎖関節上方脱臼の固定について実践できる
4回目	肩鎖関節上方脱臼の固定について実践できる
5回目	肩関節前方脱臼の整復について実践できる
6回目	肩関節前方脱臼の整復について実践できる
7回目	肩関節前方脱臼の固定について実践できる
8回目	肩関節前方脱臼の固定について実践できる
9回目	復習
10回目	試験
11回目	肘関節後方脱臼の整復について実践できる
12回目	肘関節後方脱臼の整復について実践できる
13回目	肘関節後方脱臼の固定について実践できる
14回目	肘関節後方脱臼の固定について実践できる
15回目	手第2指PIP関節背側脱臼固定について実践できる
16回目	手第2指PIP関節背側脱臼固定について実践できる
17回目	第5中手骨頸部骨折固定について実践できる
18回目	第5中手骨頸部骨折固定について実践できる
19回目	復習
20回目	学期末試験

21回目	肋骨骨折固定について実践できる
22回目	肋骨骨折固定について実践できる
23回目	膝関節側副靭帯(内側側副靭帯)損傷について実践できる
24回目	膝関節側副靭帯(内側側副靭帯)損傷について実践できる
25回目	膝関節内側側副靭帯損傷固定について実践できる
26回目	膝関節内側側副靭帯損傷固定について実践できる
27回目	足関節外側靭帯損傷について実践できる
28回目	足関節外側靭帯損傷について実践できる
29回目	復習
30回目	試験
31回目	足関節外側靭帯損傷副子固定について実践できる
32回目	足関節外側靭帯損傷副子固定について実践できる
33回目	足関節外側靭帯損傷バスケットウィーブテープ固定について実践できる
34回目	足関節外側靭帯損傷バスケットウィーブテープ固定について実践できる
35回目	足関節外側靭帯損傷フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定について実践できる
36回目	足関節外側靭帯損傷フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定について実践できる
37回目	復習
38回目	前期の復習
39回目	復習
40回目	試験
41回目	特別講義
42回目	特別講義
43回目	特別講義
44回目	特別講義
45回目	特別講義
準備学習 時間外学習	1年生で学習した骨・筋を理解しておく。
評価方法	実技試験・平常点にて総合的に評価
受講生への メッセージ	毎回出席するように。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復学・実技編改定第2版	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	城村 拓也
	Advanced Judo Therapeutic LabⅡ					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90 3	開講区分	通年
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>認定実技審査項目に沿った授業を実施する。具体的には審査項目の柔道整復学を復習した後、注意点と知識の確認後、実技を実施していく。 実務経験：10年(整形外科2年・小規模多機能居宅介護2年・鍼灸接骨院5年・自費リハビリ施設1年)</p> <p>【到達目標】</p> <p>認定実技審査項目の理解、実施、説明が出来る。</p>							

授業計画・内容	
1回目	鎖骨定型的骨折【転位のある定型的骨折】の整復について説明・実施することができる
2回目	鎖骨定型的骨折【転位のある定型的骨折】の整復について説明・実施することができる
3回目	鎖骨骨折【セイヤーSayerテープ固定】について説明・実施することができる
4回目	鎖骨骨折【セイヤーSayerテープ固定】について説明・実施することができる
5回目	上腕骨外科頭骨折【転位のある外転型骨折】の整復について説明・実施することができる
6回目	上腕骨外科頭骨折【転位のある外転型骨折】の整復について説明・実施することができる
7回目	上腕骨骨幹部骨折【ミッテドルフ三角副子固定】について説明・実施することができる
8回目	上腕骨骨幹部骨折【ミッテドルフ三角副子固定】について説明・実施することができる
9回目	1回目-8回目について説明・実施することができる
10回目	中間試験
11回目	コーレス骨折の整復について説明・実施することができる
12回目	コーレス骨折の整復について説明・実施することができる
13回目	コーレス骨折の固定について説明・実施することができる
14回目	コーレス骨折の固定について説明・実施することができる
15回目	肘内障の整復について説明・実施することができる
16回目	肩腱板損傷検査法について説明・実施することができる
17回目	肩腱板損傷検査法について説明・実施することができる
18回目	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法について説明・実施することができる
19回目	上腕二頭筋長頭腱損傷検査法について説明・実施することができる
20回目	学期末試験

21回目	ハムストリングス損傷検査法について説明・実施することができる
22回目	ハムストリングス損傷検査法について説明・実施することができる
23回目	大腿四頭筋打撲検査法について説明・実施することができる
24回目	大腿四頭筋打撲検査法について説明・実施することができる
25回目	下腿損傷の固定に用いる固定具を作ることができる
26回目	下腿骨骨幹部骨折の固定について説明・実施することができる
27回目	下腿骨骨幹部骨折の固定について説明・実施することができる
28回目	アキレス腱断裂の固定について説明・実施することができる
29回目	アキレス腱断裂の固定について説明・実施することができる
30回目	中間試験
31回目	膝関節半月板(内側半月板)損傷検査法について説明・実施することができる。
32回目	膝関節半月板(内側半月板)損傷検査法について説明・実施することができる。
33回目	膝関節半月板(内側半月板)損傷検査法について説明・実施することができる。
34回目	膝関節十字靭帯(前十字靭帯)損傷検査法について説明・実施することができる。
35回目	膝関節十字靭帯(前十字靭帯)損傷検査法について説明・実施することができる。
36回目	膝関節十字靭帯(前十字靭帯)損傷検査法について説明・実施することができる。
37回目	下腿三頭筋損傷検査法について説明・実施することができる。
38回目	下腿三頭筋損傷検査法について説明・実施することができる。
39回目	総復習
40回目	期末試験
41回目	特別講義
42回目	特別講義
43回目	特別講義
44回目	特別講義
45回目	特別講義
準備学習 時間外学習	就寝前30分・起床後30分にイメージトレーニングを行ってください。人間の脳のメモリーを効率よく稼働させていく習慣を身につけることが認定実技審査合格、国家試験合格への近道となります。日中や空いた時間に付箋やノートに知識を纏めることも重要です。睡眠はしっかりと取って1年を乗り切っていきましょう。
評価方法	実技試験(中間・期末)・平常点
受講生への メッセージ	各論の実技は理論を基に行ってください。イメージを持って何度も練習することが非常に重要となります。分からない事があれば1年生に習った事を復習して3年生になった時までに基礎をしっかりとつけておきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復学実技編改訂第2版(2020年4月) / 配布資料	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	臨床実習	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	内村 陽一
	Clinical Practice					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	実技	総時間 (単位)	90	開講区分	通年
					2	曜日・時限	月1, 2, 4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>見学型と体験型臨床実習に備えて、主訴及び現状歴・既往歴・家族歴・社会歴聴取のロールプレイ 施術録の説明・検査所見記載の実施。主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査、反射検査、運動機能検査の実施 主要関節の包帯被覆(テーピング)の実施 ※15回目講義と16回目講義の間に外部臨床実習を44時間実施(見学型24時間・体験型20時間) 実務経験：田口整骨院にて2年9か月その後うちむら接骨院を開業4年経過</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>主訴及び現状歴を把握することができる。既往歴・家族歴・社会歴を聴取することができる。施術録の説明・検査所見記載ができる。 主要関節のROM測定、筋力測定、徒手検査、反射検査、運動機能検査、超音波診断装置の理解と読解ができる 主要関節の包帯被覆(テーピング)ができる</p>							

授業計画・内容	
1回目	外部実習に臨む心得(身嗜み・挨拶・言葉遣い)、患者の誘導・施術室清潔保持の重要性・守秘義務について説明ができる
2回目	施術録の記載(説明)・物理療法機器の使用(説明)ができる
3回目	施術録の記載(説明)・物理療法機器の使用(説明)ができる
4回目	肩関節の評価(ROM・MMT)、検査(徒手・反射)、被覆包帯(テーピング)ができる
5回目	肩関節の評価(ROM・MMT)、検査(徒手・反射)、被覆包帯(テーピング)ができる
6回目	肘～手関節の評価(ROM・MMT)、被覆包帯(テーピング)ができる
7回目	肘～手関節の評価(ROM・MMT)、被覆包帯(テーピング)ができる
8回目	股関節の評価(ROM・MMT)ができる
9回目	股関節の評価(ROM・MMT)ができる
10回目	膝関節の評価(ROM・MMT)、検査、被覆包帯(テーピング)ができる
11回目	膝関節の評価(ROM・MMT)、検査、被覆包帯(テーピング)ができる
12回目	膝関節の評価(ROM・MMT)、検査、被覆包帯(テーピング)ができる
13回目	足関節の評価(ROM・MMT)、検査、被覆包帯(テーピング)ができる
14回目	足関節の評価(ROM・MMT)、検査、被覆包帯(テーピング)ができる
15回目	足関節の評価(ROM・MMT)、検査、被覆包帯(テーピング)ができる
16回目	外部実習を経て、経験した事を纏めてグループ内で症例(実習)報告することができる
17回目	外部実習を経て、経験した事を纏めてグループ内で症例(実習)報告することができる
18回目	外部実習を経て、経験した事を纏めてグループ内で症例(実習)報告することができる
19回目	外部実習を経て、経験した事を纏めてグループ内で症例(実習)報告することができる
20回目	学期末試験
21回目	超音波診断装置の理解と読解が出来る(肩部)
22回目	超音波診断装置の理解と読解が出来る(肘部)
23回目	超音波診断装置の理解と読解が出来る(膝部)
24回目	超音波診断装置の理解と読解が出来る(足部)
25回目	前半組実技試験・後半組筆記試験
26回目	前半組筆記試験・後半組実技試験
準備学習 時間外学習	臨床実習は卒業後に柔道整復師を業とするには重要な事を含んだ学習となります。患者との向き合い方から施術技術まで多岐に渡るため基本的な解剖生理学、一般臨床医学、柔道整復学を自宅学習でインプットして学内でアウトプットの練習、学外実習で経験したことを持ち帰り、自身の知識と技術の軌道修正を行ってください。
評価方法	臨床実習ガイドラインに則る
受講生への メッセージ	卒業前上で最も重要な事は「患者(クライアント)のニーズに応えること」になります。柔道整復師の業は多岐に渡る為、まずは基礎学習の習慣をつけて傾聴、アドバイスが出来るような、患者に寄り添う柔道整復師であってください。
【使用教科書・教材・参考書】	
解剖学・運動学・柔道整復理論・配布資料	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	手技療法Ⅱ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	久保 智之
	Manual Therapy Ⅱ					実務経験	○
コース	柔整スポーツ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	80 4	開講区分	前期、後期
						曜日・時限	金曜、3時限目
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 運動療法を科学的に理解するとともに、効果的な運動療法を実践する上で必要となる基礎知識を身に付ける。評価を通じて抽出された問題点に対する運動療法の適応と方法を理解する。 実務経験:リハビリテーション医療の現場で20年以上理学療法士として勤務。2004年～現在まで福岡工業大学ラグビー部メディカルトレーナーとして活動。主業務は選手のコンディショニング、アスレティックリハビリテーション、試合帯同。</p>							
<p>【到達目標】 運動療法の基礎的知識と基本的技術を習得する。 スポーツ傷害を含めた運動機能障害の評価と、適切な運動療法ができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、コンディショニングについて理解する (コンディションの構成要素、コンディショニングの方法)
2回目	運動療法について理解する (運動療法の目的、効果、種類、禁忌)
3回目	アナトミカルアダプテーションについて理解する1 (テスト、モビリティドリル)
4回目	アナトミカルアダプテーションについて理解する2 (トレーニング)
5回目	バランス障害に対する運動療法について理解する
6回目	姿勢障害に対する運動療法 について理解する
7回目	体幹トレーニングについて理解する1
8回目	体幹トレーニングについて理解する2
9回目	運動療法について理解する1 (ROM訓練、ストレッチ、筋膜リリース)
10回目	運動療法について理解する2 (ファンクショナルトレーニング)
11回目	運動療法について理解する3 (筋力訓練、PNF)
12回目	頚椎の運動機能障害に対する運動療法について理解する
13回目	胸椎の運動機能障害に対する運動療法について理解する
14回目	腰椎の運動機能障害に対する運動療法について理解する
15回目	肩関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する
16回目	肩関節複合体の運動機能障害に対する運動療法について理解する
17回目	肘関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する
18回目	手関節、手指の運動機能障害に対する運動療法について理解する
19回目	総復習
20回目	学期末試験

21回目	股関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する
22回目	股関節周辺の運動機能障害に対する運動療法について理解する
23回目	膝関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する
24回目	膝関節周辺の運動機能障害に対する運動療法について理解する
25回目	足関節の運動機能障害に対する運動療法について理解する
26回目	足関節周辺の運動機能障害に対する運動療法について理解する
27回目	足部の運動機能障害に対する運動療法について理解する
28回目	スポーツ傷害予防トレーニングについて理解する
29回目	膝関節スポーツ外傷の運動療法について理解する
30回目	膝関節スポーツ障害の運動療法について理解する
31回目	肉離れの運動療法について理解する
32回目	頭頸部のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する
33回目	体幹のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する1
34回目	体幹のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する2
35回目	上肢のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する1
36回目	上肢のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する2
37回目	下肢のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する1
38回目	下肢のスポーツ傷害に対する運動療法について理解する2
39回目	総復習
40回目	定期試験、解説
準備学習 時間外学習	①骨格筋の名称、起始・停止、機能の復習が必要。 ②骨の位置、名称、関節の構造・機能の復習が必要。 ③スポーツ傷害の原因、発生メカニズム、対処法について予習が必要。
評価方法	定期テスト(100%) 筆記
受講生への メッセージ	スポーツ分野におけるトレーナーの役割は主に4つです。傷害予防、競技パフォーマンスの向上、スポーツ現場での傷害への対応、競技復帰に向けてのリハビリテーションです。結果が最も重視され、選手からの要求もシビアです。選手から信頼されるトレーナーになるためには、常に学び続け、選手のニーズに合わせたサポートを提供する準備を怠らないことが大切です。
【使用教科書・教材・参考書】	
講義資料を配布	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	NSCA試験対策	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	山田 大介
	NSCA-CPT Test preparation					実務経験	○
コース	柔整スポーツ	授業 形態	演習	総時間 (単位)	80 4	開講区分	1学期
						曜日・時限	水曜日・2限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) パーソナルトレーナーに必要な基礎知識(エクササイズサイエンス、エクササイズテクニック、特別な人への運動処方、リスクマネジメントなど)を理解、習得し、柔道整復分野とスポーツ分野の両面からアプローチできる人材を目指す。 実務経験: 2005年よりフリーランスにてプロ野球選手をはじめ、高校、大学のS&Gコーチ、多種アスリート選手のパーソナルトレーナーとして現在も活動中である。</p>							
<p>【到達目標】 NSCA-CPT試験に合格するための学力を身につけ、NSCA-CPTの資格を取得する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	(座学)オリエンテーション/協会・資格について理解する
2回目	(座学)模擬問題を解き、試験の概要を理解する
3回目	(座学)NSCAの用語について理解する
4回目	(座学)第12章 柔軟性、自重、スタビリティボール・エクササイズについて理解する
5回目	(座学)第13章 レジスタンストレーニングのエクササイズテクニックについて理解する
6回目	(座学)第13章 レジスタンストレーニングのエクササイズテクニックについて理解する
7回目	(座学)第14章 心臓血管系活動のテクニックについて理解する
8回目	(座学)第12-14章の確認テストを解き、復習をする
9回目	(座学)第15章 レジスタンストレーニングのプログラムデザインについて理解する
10回目	(座学)第15章 レジスタンストレーニングのプログラムデザインについて理解する
11回目	(座学)第15章 レジスタンストレーニングのプログラムデザインについて理解する
12回目	(座学)第16章 有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザインについて理解する
13回目	(座学)第17章 プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニングについて理解する
14回目	(座学)第15-17章の確認テストを解き、復習をする
15回目	(座学)第9章 クライアントの面談と健康評価について理解する
16回目	(座学)第10章 体力評価の選択と管理について理解する
17回目	(座学)第11章 体力テスト法と評価基準について理解する
18回目	(座学)第9-11章の確認テストを解き、復習をする
19回目	(座学) 前期の復習
20回目	学期末試験

21回目	(座学)第1章 筋系、神経系、骨格系の構造と機能について理解する
22回目	(座学)第2章 心肺系とガス交換について理解する
23回目	(座学)第3章 生体エネルギー機構について理解する
24回目	(座学)第4章 バイオメカニクスについて理解する
25回目	(座学)第5章 レジスタンストレーニングへの適応について理解する
26回目	(座学)第6章 有酸素性持久トレーニングへの生理学的な応答と適応について理解する
27回目	(座学)第7章 パーソナルトレーニングにおける栄養について理解する
28回目	(座学)第8章 パーソナルトレーナーのための運動心理学について理解する
29回目	(座学)第1-8章の確認テストを解き、復習をする
30回目	(座学)第18章 妊婦、高齢者、青年期直前のクライアントについて理解する
31回目	(座学)第19章 栄養と代謝に問題を抱えるクライアントについて理解する
32回目	(座学)第20章 心臓血管系疾患および呼吸器系疾患を有するクライアントについて理解する
33回目	(座学)第21章 整形外科的疾患や傷害を有するクライアントとリハビリテーションについて理解する
34回目	(座学)第22章 脊髄損傷、多発性硬化症、てんかん、脳性麻痺患者についてについて理解する
35回目	(座学)第23章 アスリートを対象にしたレジスタンストレーニングについて理解する
36回目	(座学)第18-23章の確認テストを解き、復習をする
37回目	(座学)第24・25章 施設と機器の配置およびメンテナンス/法的問題について理解する
38回目	年間の復習と本試験の対策
39回目	年間の復習と本試験の対策
40回目	前期試験口
準備学習 時間外学習	テキストの熟読/トレーニングの実施/解剖学、生理学の復習
【使用教科書・教材・参考書】	マークシート方式による試験(50問)
受講生への メッセージ	試験日に向けてテキストを熟読し、継続した勉強を行なってください。また、勉強した内容を実践的に理解するために実技(トレーニング)も行いましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識/解剖学、運動生理学テキスト	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	解剖・生理学 Anatomy and Konesiology	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	辻康夫
						実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 3	開講区分	前期・後期前半
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>解剖学では正常な身体の構造や機能についてを学ぶ学問であり、生理学では生体の正常な働きや生命現象の基本を学ぶ学問である。この2つの学問から人体の構造と機能を関連付ける知識を身につける。</p> <p>実務経験: 九州大学病院7年治療に携わる。九州大学病院7年、てりは矯正歯科8年歯科臨床に携わる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能と構造についての概念を習得し、本授業終了時には各々の解剖学および生理学的事項について説明ができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	内分泌系総論について理解する
2回目	内分泌系各論 視床下部、下垂体について理解する
3回目	内分泌系各論 甲状腺のホルモンについて理解する
4回目	内分泌系各論 副腎皮質、副腎髄質について理解する
5回目	内分泌系各論 膵臓 精巣 卵巣について理解する
6回目	生殖器系の生理学 総論について理解する
7回目	男女生殖器系の構成と生理学について理解する
8回目	骨の生理学 構造、形成と成長・再吸収と再形成について理解する
9回目	ビタミンD パラソルモン カルシトニンについて理解する
10回目	感覚の一般的な特性 分類 受容器について理解する
11回目	特殊感覚 視覚について理解する
12回目	特殊感覚 聴覚 平衡感覚について理解する
13回目	特殊感覚 味覚 嗅覚について理解する
14回目	体性感覚 皮膚感覚 深部感覚について理解する
15回目	内臓感覚 痛覚と痛覚伝導路について理解する
16回目	血液の生理学 脈管系の総論復習について理解する
17回目	心臓の生理学 動脈系の復習について理解する
18回目	静脈、リンパ管系、胎児循環の復習について理解する
19回目	呼吸の生理学 呼吸器系の解剖学復習について理解する
20回目	前期定期試験、解答解説について理解する

21回目	消化器系の生理学、消化器系の構造復習について理解する①
22回目	消化器系の生理学、消化器系の構造復習について理解する②
23回目	吸収、栄養と代謝の復習について理解する
24回目	体温の生理学の復習について理解する
25回目	泌尿器系の生理学、構造の復習 腎臓について理解する
26回目	内分泌器系の生理学 復習について理解する
27回目	内分泌器系の生理学 復習について理解する
28回目	生殖器系の生理学 解剖学的事項の復習について理解する
29回目	骨の生理学について理解する
30回目	前期定期試験、解答解説
準備学習 時間外学習	講義予定範囲の教科書本文を熟読し理解できない部分をまとめておくこと
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	正常な人体の構造、機能、機序を学ぶ解剖学、生理学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習して欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい
【使用教科書・教材・参考書】	
「解剖学」改訂第2版 「生理学」第3版 全国柔道整復学校協会監修 南江堂	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	関係法規	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木寺 修作
	Regulation					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	40	開講区分	前期
					2	曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）
 柔道整復師の法規について学習し、資格の位置づけ、資格の特徴、医療の中での柔道整復師などのようなものであるかを学習し説明ができるようになる。国家試験の必修項目である分野（柔整師法、各医療法規、医療法）の頻出するところは繰り返し学習する。また難しいイメージがある法律を紐解き苦手意識を持たないよう砕いた言葉で説明を行い、具体例を挙げながら説明していく。
 実務経験：整骨院にて7年勤務

【到達目標】
 資格、医療について理解して、各項目（免許、守秘義務、業務範囲、広告、医師法、薬事法、各種保健法）について説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	国家試験・法の体系について理解する
2回目	患者の権利について理解する
3回目	医療過誤とリスクマネジメントについて理解する
4回目	柔道整復師に関する法規・柔道整復師法の目的について理解する
5回目	免許についてについて理解する
6回目	柔道整復師国家試験について理解する
7回目	業務について理解する
8回目	施術所・雑則について理解する
9回目	罰則・指定登録機関及び指定試験機関について理解する
10回目	柔道整復師法施行令・規則について理解する
11回目	医療従事者の資格法・医療法について理解する
12回目	医療従事者の資格法・医療法について理解する
13回目	社会福祉関係法規について理解する①
14回目	社会福祉関係法規について理解する②
15回目	その他の関係法規について理解する
16回目	社会保障制度について理解する
17回目	国家試験過去問演習
18回目	前期総復習①
19回目	前期総復習②
20回目	前期定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	この学習では復習が大事である為、自宅学習の実施をすることが大切である。
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	教科書が毎回すすんでいきますので欠席をしないようにしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
全国学校協会 関係法規	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	城村 拓也
	Clinical judo Therapy Ⅱ					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	開講区分	前期・後期前半
					3	曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>柔道整復学の理解を深め国家試験合格水準を目標とする 国家試験における出題が最も多い分野であり、かつ臨床現場において理解していなければならない科目である。 実務経験: 10年(整形外科2年・小規模多機能居宅介護2年・鍼灸接骨院5年・自費リハビリ施設1年)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>国家試験合格に加えて臨床の場での適宜、患者様に対応できる知識を身につける。</p>							

授業計画・内容	
1回目	橈骨遠位端部骨折について理解する①
2回目	橈骨遠位端部骨折について理解する②
3回目	鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼について理解する
4回目	肩関節脱臼、上腕骨近位端部骨折について理解する①
5回目	上腕骨近位端部骨折について理解する②
6回目	肘関節脱臼、上腕骨遠位端部骨折について理解する①
7回目	上腕骨遠位端部骨折について理解する②
8回目	肩甲骨骨折、上腕骨骨幹部骨折について理解する
9回目	前腕骨近位端部骨折について理解する
10回目	前腕骨骨幹部骨折、手根骨骨折について理解する①
11回目	手根骨骨折②、手根骨脱臼について理解する
12回目	中手骨骨折について理解する
13回目	指骨骨折について理解する
14回目	鎖骨脱臼、肩関節周囲の軟損①について理解する
15回目	鎖骨脱臼、肩関節周囲の軟損②について理解する
16回目	鎖骨脱臼、肩関節周囲の軟損③について理解する
17回目	肘関節周囲の軟部組織損傷について理解する
18回目	本講義の前期範囲について説明できる①
19回目	本講義の前期範囲について説明できる②
20回目	前期定期試験・解答解説

21回目	絞扼性神経障害について理解する①
22回目	絞扼性神経障害について理解する②
23回目	手・指の軟部組織障害について理解する①
24回目	手・指の軟部組織障害について理解する②
25回目	手・指の軟部組織障害③について理解する
26回目	スポーツ障害について理解する
27回目	疲労性骨折、骨端症について理解する
28回目	本講義の後期範囲について説明できる①
29回目	本講義の後期範囲について説明できる②
30回目	後期前半定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	近年、国家試験における軟部組織損傷(スポーツ損傷・スポーツ障害)の出題傾向が多岐にわたり出題されている。よって運動器の内容の理解度は高めておくべきである。
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	国家試験受験の大切な1年となります。基礎解剖学と柔道整復学理論は全般的に復習をしておかないと後半で成績が伸び悩むと思うので、前期のうちに頑張って頭に定着させましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書(理論編・実技編)、プリント	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅲ Clinical Judo Therapy Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	水元 宏哉
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	実務経験	○
コース	共通				3	開講区分	前期・後期前半
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) これまで履修した柔道整復理論の総復習 実務経験: 整形外科で2年 整骨院で6年勤務							
【到達目標】 国家試験問題の傾向と対策を知る 臨床的思考を構築する							

授業計画・内容	
1回目	総論問題演習および解答解説について理解する①
2回目	総論問題演習および解答解説について理解する②
3回目	総論実力テスト
4回目	総論実力テストの解説について理解する
5回目	総論問題演習および解答解説について理解する③
6回目	総論問題演習および解答解説について理解する④
7回目	下肢実力テスト
8回目	下肢実力テストの解説について理解する
9回目	骨盤骨骨折～大腿部の脱臼・骨折の問題演習および解答解説について理解する①
10回目	骨盤骨骨折～大腿部の脱臼・骨折の問題演習および解答解説について理解する②
11回目	大腿部～下肢の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する①
12回目	大腿部～下肢の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する②
13回目	大腿部～下肢の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する③
14回目	下腿～足部の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する①
15回目	下腿～足部の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する②
16回目	下腿～足部の脱臼・骨折の問題演習および解説について理解する
17回目	骨盤骨骨折～大腿部の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する
18回目	前期総復習について理解する①
19回目	前期総復習について理解する②
20回目	前期定期試験・解答解説について理解する
21回目	大腿部～下腿の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する①
22回目	大腿部～下腿の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する②
23回目	下腿～足部の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する①
24回目	下腿～足部の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する②
25回目	下腿～足部の軟部組織損傷の問題演習および解説について理解する③
26回目	体幹部の損傷の問題演習および解説について理解する①
27回目	体幹部の損傷の問題演習および解説について理解する②
28回目	本講義範囲について説明できる①
29回目	本講義範囲について説明できる②
30回目	後期前半定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	柔道整復理論、解剖学、生理学、運動学の自宅学習が必要
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	1,2年次に受講した範囲ですが知識を定着する為にも復習は大切な時間となります。休まず受講して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書(理論編・実技編)、プリント	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅳ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	細井 昭宏
	Clinical judo Therapy Ⅳ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	実務経験	○
コース	共通				3	開講区分	前期・後期前半
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 国家試験対策として柔整学の臨床科目を中心に学習。 実務経験: 整骨院にて20年勤務</p>							
<p>【到達目標】 年々難易度が上昇傾向にある臨床科目を他の科目とリンクできるようにする 他学科の出題傾向にも注視し、基礎医学の復習を行い、国家試験レベルでの説明ができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	本講義の概要について理解する
2回目	診察各論(問診)について理解する
3回目	診察各論(視診)について理解する
4回目	診察各論(聴診)について理解する
5回目	診察各論(打診)について理解する
6回目	柔理各論について理解する①(顔面～体幹、呼吸器系含む)
7回目	柔理各論について理解する②(顔面～体幹、呼吸器系含む)
8回目	柔理各論について理解する③(顔面～体幹、呼吸器系含む)
9回目	柔理各論について理解する④(顔面～体幹、呼吸器系含む)
10回目	柔理各論について理解する⑤(顔面～体幹、呼吸器系含む)
11回目	柔理各論について理解する⑥(顔面～体幹、呼吸器系含む)
12回目	柔理各論について理解する⑦(各組織損傷、代謝系含む)
13回目	柔理各論について理解する⑧(各組織損傷、内分泌系含む)
14回目	柔理各論について理解する⑨(各組織損傷、血液系含む)
15回目	柔理各論について理解する⑩(各組織損傷、神経系含む)
16回目	柔理各論について理解する⑪(各組織損傷、感染症系含む)
17回目	柔理各論について理解する⑫(各組織損傷、膠原病含む)
18回目	柔理各論について理解する⑬(各組織損傷、腎系含む)
19回目	本講義前期範囲を説明できる
20回目	前期定期試験・解答解説
21回目	柔理各論について理解する⑭(上肢下肢、損傷炎症含む)
22回目	柔理各論について理解する⑮(上肢下肢、炎症腫瘍含む)
23回目	柔理各論について理解する⑯(上肢下肢、ショック輸血輸液含む)
24回目	柔理各論について理解する⑰(上肢下肢、消毒手術麻酔含む)
25回目	柔理各論について理解する⑱(上肢下肢、免疫含む)
26回目	柔理各論について理解する⑲(上肢下肢、出血止血心肺蘇生含む)
27回目	柔理各論について理解する⑳(脊椎、脳外科甲状腺含む)
28回目	柔理各論について理解する㉑(胸壁、呼吸器心臓脈管含む)
29回目	柔理各論について理解する㉒(胸壁、腹部疾患含む)
30回目	後期前半定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	国家試験過去問題の解剖、生理、柔理に挑戦。 授業と並行して夏休みまでには基礎医学の復習を終わらせましょう。
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	この授業は国家試験対策のひとつとして、臨床系科目の対策です。 基礎医学をしっかり学び応用できれば解決できることが多いです。 まずは焦らず一緒に勉強計画を立てていきましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書(理論編・実技編)、プリント	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅴ Clinical judo Therapy Ⅴ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	齊藤 智仁
						実務経験	○
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	20 1	開講区分	後期前半
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 柔道整復師として必要な社会保険制度や職業倫理について理解できる。
 実務経験：整骨院・整形外科併設整骨院にて6年勤務

【到達目標】
 国家試験合格に向けて総復習をし理解する。

授業計画・内容	
1回目	運動器損傷の診察(医療面接・全身の観察・触診・各徒手検査等)について理解する
2回目	疾病の一般(分類・経過・予後・転帰)について理解する
3回目	細胞障害(退行性病変・進行性病変・代謝障害)について理解する
4回目	炎症(一般・分類)について理解する
5回目	感染症について理解する①
6回目	感染症について理解する②
7回目	消毒(消毒法一般・種類・方法)について理解する
8回目	患者の権利・医療過誤・リスクマネジメント・関係法規について理解する
9回目	本講義の範囲について理解する
10回目	定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	授業前後に復習をしてください。
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	すでに受講した範囲だと思わず、知識が定着しているのかしっかりと確認しながら受講し、再確認して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復理論・柔道整復実技・病理学・衛生学・関係法規・資料プリント	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復術適応の臨床的判定 <small>Clinical Decision for Adapting Judo Therapy Treatment</small>	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	齊藤 智仁
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	40	実務経験	○
コース	共通				2	開講区分	前期
						曜日・時限	

【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)
 柔道整復師の法制度的業務範囲の整理として柔道整復師法と受領委任取扱規定(健康保険施術)の係る法制度的な適応を理解し、医療における柔道整復師の位置づけを学び、臨床へ活かす。
 実務経験：整骨院・整形外科併設整骨院にて6年勤務

【到達目標】
 医学的適応を理解し、柔道整復術所での施術が妥当な外傷であるか否かの判断を身に着け、内科的疾患等を鑑別し、患者利益を損なうことのない知識を習得する。

授業計画・内容	
1回目	柔道整復術所の非適応疾患について説明できる①
2回目	柔道整復術所の非適応疾患について説明できる②
3回目	柔道整復術所の非適応疾患について説明できる③
4回目	運動器傷害と鑑別すべき内科的疾患について説明できる①
5回目	運動器傷害と鑑別すべき内科的疾患について説明できる②
6回目	悪性腫瘍等に由来する疾患別特徴について説明できる①
7回目	悪性腫瘍等に由来する疾患別特徴について説明できる②
8回目	不可逆性変化(急性馬尾神経症候群等)の理解について説明できる①
9回目	不可逆性変化(急性馬尾神経症候群等)の理解について説明できる②
10回目	超音波画像観察装置について説明できる
11回目	超音波画像観察装置について説明できる
12回目	超音波画像観察装置の法的位置づけについて説明できる
13回目	超音波画像観察装置の読影方法について説明できる①
14回目	超音波画像観察装置の読影方法について説明できる②
15回目	単純X線について説明できる
16回目	X線CTについて説明できる
17回目	MRIについて説明できる
18回目	シンチグラフィについて説明できる
19回目	本講義の範囲を説明できる
20回目	前期定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	解剖学と一般臨床医学の復習が必要
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	鑑別診断は柔道整復師にとって、とても重要な知識とスキルになります。卒後、即戦力となれるようしっかりと受講して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
施術の適応と医用画像の理解(教科書)	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	城村 拓也
	Advanced Judo Therapeutic Lab Ⅲ					実務経験	○
コース	共通	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時間	前期・後期前半
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>問診・視診・触診の能力 鑑別診断および整法復・固定法・検査法 実務経験：10年(整形外科2年・小規模多機能居宅介護2年・鍼灸接骨院5年・自費リハビリ施設1年)</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>損傷に対する正確かつ迅速な診断および処置能力を修得し実践できる 臨床現場における実践力・対応力を修得し実践できる 多種多様な損傷に対する診断や治療法を修得し実践できる</p>							

授業計画・内容	
1回目	動画における骨折・脱臼の整復法について実践できる
2回目	肩関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼、コーレス骨折について実践できる
3回目	鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、肘関節後方脱臼について実践できる
4回目	肩関節前方脱臼、肩鎖関節上方脱臼、コーレス骨折について実践できる
5回目	鎖骨骨折、上腕骨骨幹部骨折、肘関節後方脱臼について実践できる
6回目	膝関節MCL損傷、足関節外側靭帯損傷について実践できる①
7回目	膝関節MCL損傷、足関節外側靭帯損傷について実践できる②
8回目	下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂について実践できる①
9回目	下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂について実践できる②
10回目	肘内障、腱板損傷、上腕二頭筋長腱損傷について実践できる
11回目	ハムストリングス損傷、大腿四頭筋損傷について実践できる
12回目	肘関節軟部組織損傷、下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷について実践できる
13回目	鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼について実践できる
14回目	上腕骨骨幹部骨折、肘関節後方脱臼、コーレス骨折について実践できる
15回目	肋骨骨折、下腿骨骨幹部骨折、アキレス腱断裂について実践できる
16回目	第5指中手骨頸部骨折、第2指PIP関節背側脱臼について実践できる
17回目	本講義前期範囲の内容を理解し実践できる①
18回目	本講義前期範囲の内容を理解し実践できる②
19回目	本講義前期範囲の内容を理解し実践できる③
20回目	前期実技試験
21回目	足関節外側靭帯損傷について実践できる
22回目	鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼について実践できる
23回目	肘関節後方脱臼、肘内障、コーレス骨折について実践できる
24回目	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、ハムスト、リング損傷、大腿四頭筋打撲、下腿三頭筋損傷について実践できる
25回目	膝関節損傷(MCL・LCL、ACL・PCL、MM・LM)、足関節外側靭帯損傷について実践できる
26回目	鑑別診断、合併症、後遺症の判断について実践できる
27回目	本講義後期範囲の内容を理解し実践できる①
28回目	本講義後期範囲の内容を理解し実践できる②
29回目	本講義後期範囲の内容を理解し実践できる③
30回目	後期前半実技試験
準備学習 時間外学習	各損傷における発生機序、症状(所見、特徴)、鑑別等を理解し、イメージした上で整復、検査、固定等が出来るように準備すること。
評価方法	実技試験・筆記試験・出席状況・授業態度を加味して総合的に評価
受講生への メッセージ	1・2年生時に配布された資料を見直ししておくこと。授業は自分の弱点補強や改善点を学ぶ場として参加してください。時間を有効に使い、自主練習も積極的に行って実技審査合格を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復理論実技編・認定実技審査・その他	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復実技Ⅳ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	水元 宏哉
	Advanced Judo Therapeutic Lab Ⅳ	授業 形態	実技	総時間 (単位)	60	実務経験	○
コース	共通				2	開講区分	前期・後期前半
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 各部位に最適な固定法を理解し、正確且つスピーディーに被服・固定が実践できるよう繰り返し練習する。 実務経験: 整形外科で2年 整骨院で6年勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な損傷に対する固定法の習得する ・臨床での実践力・対応力を習得する ・損傷に対する正確でスピーディーな固定能力を高め実践できる 							

授業計画・内容	
1回目	授業の勧め方等・基本包帯法の復習を説明できるようになる
2回目	足関節外側靭帯損傷を説明し固定できるようになる
3回目	下肢に対するテーピング(膝・足関節)を説明し固定できるようになる
4回目	手第5指中手骨頸部骨折を説明し固定できるようになる
5回目	手第2指PIP関節背側脱臼を説明し固定できるようになる
6回目	肩鎖関節上方脱臼を説明し固定できるようになる
7回目	鎖骨骨折を説明し固定できるようになる
8回目	肩関節前方脱臼を説明し固定できるようになる
9回目	上腕骨骨幹部骨折を説明し固定できるようになる
10回目	肋骨骨折を説明し固定できるようになる
11回目	下腿骨骨幹部骨折を説明し固定できるようになる
12回目	アキレス腱断裂を説明し固定できるようになる
13回目	コーレス骨折を説明し固定できるようになる
14回目	肘関節後方脱臼を説明し固定できるようになる
15回目	実技試験の説明、実技練習
16回目	前期範囲を実践することができる 総復習①
17回目	前期範囲を実践することができる 総復習②
18回目	前期範囲を実践することができる 総復習③
19回目	前期範囲を実践することができる 総復習④
20回目	前期実技試験
21回目	上肢への固定法を実践することのできる 復習①
22回目	上肢への固定法を実践することのできる 復習②
23回目	下肢・体幹への固定法を実践することのできる 復習①
24回目	下肢・体幹への固定法を実践することのできる 復習②
25回目	認定実技審査について説明することのできる 総復習
26回目	認定実技審査について説明することのできる 振り返り
27回目	本講義での内容を実践できる 総復習①
28回目	本講義での内容を実践できる 総復習②
29回目	本講義での内容を実践できる 総復習③
30回目	後期前半実技試験
準備学習 時間外学習	固定の目的や範囲、肢位等を理解し、多種多様な損傷に適した固定を選択できるよう理論を復習し、固定法を反復練習する事。
評価方法	実技試験・筆記試験・出席状況・授業態度を加味して総合的に評価
受講生への メッセージ	1・2年生時に配布された資料を見直しておくこと。授業は自分の弱点補強や改善点を学ぶ場として参加してください。時間を有効に使い、自主練習も積極的に行って認定実技審査合格を目指しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、硬性材料、軟性材料	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	柔道整復実技 VI Advanced Judo Therapeutic Lab VI	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	内村 陽一
						実務経験	○
コース	共通	授業 形態	実技	総時間 (単位)	30 1	開講区分	前期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>外部臨床実習に出る際に必要な実践的知識や技術の復習を実施し、臨床実習前試験を行う。 実務経験: 田口整骨院にて2年9か月その後うちむら接骨院を開業4年経過</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>柔道整復師として必要な保険の仕組みや施術の流れを実践できる。 臨床現場において対応できる能力を身につけ、該当症状に対して適切な処置法を行う事ができるようになる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	医療面接(オープン・クローズドクエッション、基本的傾聴、共感的態度)を説明し実践できるようになる
2回目	医療面接(位置感・距離感、メラビアン ^① の法則)を説明し実践できるようになる
3回目	業務上の危機管理(リスクマネジメント、ヒヤリハット、医療事故と医療過誤)を説明できるようになる
4回目	業務上の危機管理(施術録、個人情報、インフォームドコンセント)を説明できるようになる
5回目	ランドマーク・身体計測についてを説明し実践できるようになる
6回目	関節可動域(ROM)測定についてを説明し実践できるようになる
7回目	社会保障各種保険についてを説明できるようになる
8回目	包帯固定学①を説明し実践できるようになる
9回目	包帯固定学②を説明し実践できるようになる
10回目	テーピングを説明し実践できるようになる
11回目	ストレッチを説明し実践できるようになる
12回目	外傷について①を説明し実践できるようになる
13回目	外傷について②を説明し実践できるようになる
14回目	外傷について③を説明し実践できるようになる
15回目	実技試験
準備学習 時間外学習	解剖学、柔道整復理論、柔道整復実技、包帯固定学の予習復習
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	臨床実習に必要な学習をします。欠席をしないようにして下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
解剖学、柔道整復理論第6版、柔道整復実技第2版、包帯固定学	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	プログラムデザイン	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	谷口貴隆
	Program Design	授業 形態	演習	総時間 (単位)	40	実務経験	○
コース	柔整スポーツ				2	開講区分	前期
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) ●トレーニングの原理やエクササイズの適切な配列を理解する ●トレーニングの負荷を決定できるようになる ●演習としてエクササイズ名、エクササイズテクニックの理解を深める これらのことを反復して学び、個別のトレーニングプログラムが組めるようになる スポーツトレーナー指導歴 19年							
【到達目標】 対象者別のトレーニングプログラムの作成、指導ができるようになる ①レジスタンストレーニング ②有酸素性持久力							

授業計画・内容	
1回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン①を説明し実践できるようになる
2回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン②を説明し実践できるようになる
3回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン③を説明し実践できるようになる
4回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン④を説明し実践できるようになる
5回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン⑤を説明し実践できるようになる
6回目	レジスタンストレーニングのプログラムデザイン総復習
7回目	有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン①を説明し実践できるようになる
8回目	有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン②を説明し実践できるようになる
9回目	有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン③を説明し実践できるようになる
10回目	有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン④を説明し実践できるようになる
11回目	有酸素性持久カトレーニングのプログラムデザイン総復習
12回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング①を説明し実践できるようになる
13回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング②を説明し実践できるようになる
14回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング③を説明し実践できるようになる
15回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング④を説明し実践できるようになる
16回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング⑤を説明し実践できるようになる
17回目	プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング総復習
18回目	総復習①
19回目	総復習②
20回目	定期試験・解答解説
準備学習 時間外学習	①エクササイズの種目名とエクササイズテクニックの理解度を上げる ②自分自身でトレーニングを実施して、体の使い方や反応を知る
評価方法	定期試験100%
受講生への メッセージ	エクササイズの種目名や種類、エクササイズテクニックを覚えて、個別のトレーニングプログラムが組めるようになりましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	臨床実習 Clinical Practice	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	水元 宏哉
						実務経験	○
コース	共通	授業 形態	実技	総時間 (単位)	45 1	開講区分	
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>外部臨床実習をメインに学内では実習に必要な指導と評価後のフィードバックを行う。 ※学内での2回目と3回目の講義の間に40時間(8時間/day)の外部実習を実施する。 ※実務経験：整形外科で2年 整骨院で6年勤務</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>臨床現場において対応できる能力を身につけ、該当症状に対して適切な処置法を行う事ができるようになる。□</p>							
授業計画・内容							
1回目	臨床実習に必要な「態度」「医療面接」へのアプローチの再確認をし実践できるようになる						
2回目	臨床実習に必要な「診察」「施術へのアプローチ」の再確認をし実践できるようになる						
3回目	各個人の实習における評価のフィードバックを理解し実践できるようになる						
4回目	各個人の实習における評価のフィードバックを理解し実践できるようになる						
準備学習 時間外学習	学内での講義時間外でOSCEを実施する為、1,2年次の実習の振り返りと対策が必要となる。						
評価方法	臨床実習ガイドラインに則る						
受講生への メッセージ	最終学年での臨床実習となります。卒業して即戦力となるように、実習態度はもちろん、評価(検査)等の基礎項目をしっかりとできるように心掛けましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
柔道整復学理論編改訂第7版・柔道整復学実技編改訂第2版・包帯固定学改訂第2版・関係法規2024年版・リハビリテーション医学改訂第4版 整形外科学改訂第4版・一般臨床医学改訂第3版・運動学改訂第3版・解剖学改訂第2版・生理学改訂第4版							

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	セルフプロモーション論 Self-promotion Theory	必修 選択	必修	年次	1	担当教員 実務経験	矢島孔明(科目責任者)久住廣理
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日・時限
【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>本科日では、心身健康科学/人間総合科学の視点から、人間の脳やホルモンの働き、心とからだの相関性などを手がかりに、信頼関係の構築、ストレスへの対処、免疫力の向上などについて科学的に読み解いていきます。そして段階的に、共生社会で自分らしく生き生きと生きるためのスキルの形成を図ります。学修を進めるうちに、視点が変わり、考え方も変わり、また別の考え方が生まれるでしょう。この自分自身の変化が、本科目で言う「よりよく生きるための知恵(Knowledge for Well-Being)」の創造につながります。絶えず変化(成長)していることを学修者自身が自覚しながら、スキルの主体的な社会生活への活用を目指します。</p>							
【到達目標】							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「よりよく生きる」とはどのようなことなのかを語るができる。 2. 自立と共生のための人間理解に必要なことを述べるができる。 3. 自身の考え方がどのように変化したかを内観し表現することができる。 4. 得た気づきをもとに、自身の人生における「よりよく生きるための知恵(Knowledge for Well Being)」を総合的に探究し、社会生活に活用することができる。 							
授業計画・内容							
1回目	第1章	できると信じて、一步を踏み出す					
2回目	第1章	人生の変化の受け入れについて					
3回目	第1章	人生の変化に対する脳のメカニズムについて					
4回目	第2章	他人と助け合って生きる					
5回目	第2章	本能・理性などの脳部位の調和について					
6回目	第2章	「共感脳」の仕組みと働きについて					
7回目	第3章	新たな自分を育てる					
8回目	第3章	共感脳を育む働きがあるホルモン、オキシトシンについて					
9回目	第3章	科学的な視点から「足るを知る」ことの価値について					
10回目	第4章	心と体のメカニズムを知る					
11回目	第4章	自律神経・ホルモンについて					
12回目	第4章	自然治癒力について					
13回目	第5章	いのちをより良く生きる					
14回目	第5章	なぜ人は学ぶことが必要なのか					
15回目	第5章	より良く生きるための知恵について					
16回目	第5章	自己教育力について					
17回目		ライフ・プロモーションについて					
18回目		自立と共生について					
19回目		総復習					
20回目		学期末試験					
準備学習 時間外学習	「よりよく生きるための知恵」として、心身が極めて精緻な仕組みを持ち、絶妙なバランスを保ちながら健康やいのちを支えていることを理解しましょう。自分自身の人生と重ね合わせて探求することが大切です。						
評価方法	定期試験						
受講生への メッセージ	テキスト「運命を変える心とからだの磨き方」を通読して、感じ取られた内容を自己の考えや経験に当てはめながら、そこにある人間の本質を考えてみましょう。「ヒューマン」や「心身健康科学」の教科書とつながりのある事項も多いです。照らし合わせて、あなた自身の「よりよく生きる」知恵として書き出してみましょう。感じ考えたことをUHAS@myキャンパスを使用して教員に伝えたり、身近なヒトに話したりしてみましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
久住員理『運命を変える心とからだの磨き方』幻冬舎							

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	コミュニケーション入門 Intoroduction to Communication	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	小岩信義
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>具体的事例を通して、コミュニケーションの実践につながる理論と、医療・福祉の現場における患者対応や指導、職場の人間関係、職種間の連携構築に必要な人間理解の基礎を学ぶ。また、自己と他者、そして相互の理解を深めるテクニックとコミュニケーション方法の学習を通して、医療従事者に必要となるコミュニケーションの基礎力を修得する。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.自己と他者、そして相互の理解に必要なコミュニケーションの基礎技法について説明できる。 2.人間関係から生じる感情やストレスのイ土組みと、対処に必要な技法を説明できる。 3.安定した人間関係の形成要因とこれに必要な視点、技法について説明できる。 4.自己成長の観点からコミュニケーション力の重要性を説明できる。 							

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス
2回目	第1章：視点をかえれば人間関係が変わる
3回目	第1章：職場の人間関係について
4回目	第1章：自己の感情発現の仕組みとコントロールの方法について
5回目	第1章：職場の上司や同僚の行動に対しての技法
6回目	第2章：過度な期待がいらだちを生む
7回目	第2章：否定的な感情を生む仕組みについて
8回目	第2章：事例検討
9回目	第2章：傾聴、チャンクダウン、承認、共感的理解について
10回目	第3章：相手を知ればストレスが減る
11回目	第3章：ストレスが生じる場面について
12回目	第3章：人間関係・信頼関係について
13回目	第3章：相互理解と協調関係の形成について
14回目	第3章：質問方法やフィードバックの方法等について
15回目	第4章：自分の中の勇気を呼び覚ます
16回目	第4章：他者と良好なコミュニケーションの取り方について
17回目	第4章：ソーシャルネットワークの作り方や自分自身の中で生じる様々なストレスとの向き合い方について
18回目	第4章：自己成長・人間関係力やコミュニケーション力を修得する方法について
19回目	総復習
20回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	テキストの巻末(第4章末尾)に参考図書をリストアップしているので、学習の進展に応じて参考にすること。
評価方法	定期試験
受講生への メッセージ	本科目で学修していた内容は、受講生のみなさんの家庭、学校、職場等の社会生活の中で活かしていただける内容となっておりますので、実践をとおして得た感想や質問などを担当する教員に届けていただき、コーチング・マインドの理解促進を受講生のみなさんとともに深めたいと考えています。
【使用教科書・教材・参考書】	
医療・福祉現場のコミュニケーション(三輪書店)	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	生活習慣と健康 Lifestyle and Health	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	鈴木はる江
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	実務経歴	
						開講区分	前期
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>健康的な生活習慣の重要性に対する関心と理解について自身の生活を振り返るとともに、社会との関係性を再認識する</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>心身の健康を維持するために、日ごろの生活習慣が重要であることを理解し、自身の生活改善に活用する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	第1章 生活習慣病の特徴①
2回目	第1章 生活習慣病の特徴②
3回目	第2章 主な生活習慣病①
4回目	第2章 主な生活習慣病②
5回目	第2章 主な生活習慣病③
6回目	第3章 歯の健康①
7回目	第3章 歯の健康②
8回目	第4章 がんと生活習慣①
9回目	第4章 がんと生活習慣②
10回目	第5章 肥満:栄養と運動①
11回目	第5章 肥満:栄養と運動②
12回目	第6章 メタボリックシンドローム①
13回目	第6章 メタボリックシンドローム②
14回目	第7章 飲酒習慣と健康①
15回目	第7章 飲酒習慣と健康②
16回目	第8章 喫煙習慣①
17回目	第8章 喫煙習慣②
18回目	第9章 生活習慣病対策
19回目	健康日本21について
20回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	マイキャンパスの「質問箱」へ寄せられた質問へ、1週間以内に返答するようにします。
評価方法	定期試験
受講生への メッセージ	テキストの重要ポイントを理解し、自分自身の生活改善にどのように応用できるかを考察する。
【使用教科書・教材・参考書】	
『まるごとわかる!生活習慣病』、坂根直樹、「南江堂」、2020、第1版	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	医療英語 Medical English	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	ILC
						実務経験	
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	40 2	開講区分	後期
						曜日・時限	
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>柔道整復師は日本国内の伝統的な資格であるが、現在はグローバルに活躍できる場がある。そこで柔道整復師としてまたは医療人として英語を発信する能力を身につけ、グローバルに活躍できる柔道整復師になってもらうために実施する</p> <p>【到達目標】</p> <p>①英語による英語でのコミュニケーションがとれる。 ②自分で自己紹介、自分の考えを相手に伝えることができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	イントロダクション
2回目	受付に関わる医療英語について理解できる
3回目	受付に関わる医療英語について理解できる②
4回目	受付に関わる医療英語について理解できる③
5回目	診察に関わる医療英語について理解できる
6回目	診察に関わる医療英語について理解できる 問診①
7回目	診察に関わる医療英語について理解できる 問診編②
8回目	診察に関わる医療英語について理解できる 問診編③
9回目	診察に関わる医療英語について理解できる 視診編①
10回目	診察に関わる医療英語について理解できる 視診編②
11回目	診察に関わる医療英語について理解できる 触診編①
12回目	診察に関わる医療英語について理解できる 触診編②
13回目	診察に関わる医療英語について理解できる 触診編③
14回目	診察に関わる医療英語について理解できる 超音波機器
15回目	診察に関わる医療英語について理解できる 診断
16回目	診察に関わる医療英語について理解できる 施術①
17回目	診察に関わる医療英語について理解できる 施術②
18回目	診察に関わる医療英語について理解できる 会計①
19回目	診察に関わる医療英語について理解できる 会計②
20回目	学期末試験
準備学習 時間外学習	<p>(目標①)この授業を受けるには、可能であれば事前にテキストに目を通し、分からない単語や表現があれば調べておくことが望ましい。</p> <p>(目標②)この授業を受けた後は、必ずまたテキストに目を通し、復習をしていくことが望ましい。動画が見れる場合は動画も視聴しておくこと。</p> <p>時間外学習は①と②及び、将来外国人と接する際、必要なフレーズを使用してコミュニケーションが取れることを想定しておくことが望ましい。</p>
評価方法	<p>定期試験にて知識・技能の到達評価を行う。</p> <p>●定期試験(100%) 上記にて成績評価を行う。</p>
受講生への メッセージ	<p>この授業では、基本的な日常英会話を自信を持って実践できるよう様々なアプローチから構成されたテキストを基にして学習していきます。最初に交わす挨拶から好きな音楽のジャンルを質問したり兄弟がいるかどうか、または日常のことについて質問したりと日頃友人と交わす日本語の内容と変わらない基本的なレベルの会話を英語に置き換えて練習していきます。きっと自信を持って日常英会話をするようになると思います。この授業においては、ペアワークやワークシートなどに関しては進んで取り組むことが望ましいです。</p>
【使用教科書・教材・参考書】	
医療英語コミュニケーションテキスト	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	保健体育 Health and Physical Education	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	仲田直樹/坂本道人
						実務経験	
コース	共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	90 6	開講区分	通年
						曜日・時限	月曜1,2限, 火曜4限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>柔道の歴史(創始者、創始年)、理念、教育的効果(礼・精神・道徳・品格)、嘉納治五郎師範の考え・言葉(精力善用・自他共栄)・遺訓について学習する。また、道場の清掃、礼法、受身については毎授業行う。また前期後半より、認定実技審査合格の為に必要な初段相応の実力を身に着ける為、形・受身・乱取・身嗜等の基本的動作を習得する。</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>①柔道衣、帯を正しく着る(結ぶ)ことができる ②柔道の礼法を身につける ③受身の重要性を理解する ④形の理合いを理解し、相手を投げることができる ⑤相手を尊重し、技の攻防ができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	後受身、横受身、前受身が実践できる
3回目	柔道衣の着方、礼法が実践できる
4回目	前回受身、歩き方、組み方が実践できる
5回目	出足払、送足払が実践できる
6回目	膝車、支釣込足が実践できる
7回目	足技の復習
8回目	背負投、体落が実践できる
9回目	袈裟固、横四方固、上四方固が実践できる
10回目	立技・寝技の約束乱取りが実践できる
11回目	試験前練習
12回目	中間試験
13回目	手技(浮落)が実践できる
14回目	手技(背負投)が実践できる
15回目	手技(肩車)が実践できる
16回目	手技(浮落・背負投)が実践できる
17回目	手技(背負投・肩車)が実践できる
18回目	手技復習
19回目	試験前練習
20回目	学期末試験

21回目	オリエンテーション
22回目	腰技(浮腰)の足運びが実践できる
23回目	腰技(浮腰)の投げるまでが実践できる
24回目	腰技(払腰)の足運びが実践できる
25回目	腰技(払腰)の投げるまでの動作を実践できる
26回目	腰技(釣込腰)の足運びが実践できる
27回目	腰技(釣込腰)の投げるまでの動作を実践できる
28回目	試験の説明、総復習①
29回目	総復習②
30回目	定期試験
31回目	足技(送足払)足運びが実践できる
32回目	足技(送足払)投げるまでの動作が実践できる
33回目	足技(支釣込足)足運びが実践できる
34回目	足技(支釣込足)投げるまでの動作が実践できる
35回目	足技(内股)足運びが実践できる
36回目	足技(内股)投げるまでの動作が実践できる
37回目	試験の説明、総復習①
38回目	総復習②
39回目	総復習③
40回目	定期試験
41回目	特別講義
42回目	特別講義
43回目	特別講義
44回目	特別講義
45回目	特別講義
準備学習 時間外学習	授業内では十分な反復練習の時間が無いので週に1度は柔道場にて復習練習に取り組むことが望ましい
評価方法	出席、中間試験、定期試験にて評価する。
受講生への メッセージ	1年生の柔道の授業では身嗜み、礼法などの基本動作をしっかりと身につけ、他の授業実技・座学にも活かしてほしい。また形や立技などでは、技の理合い、受身の重要性をしっかりと理解し、授業に臨んでほしい。 3年生の認定実技審査合格に向けて必要な技術・知識を体得してもらう。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道着	

2024年度 授業概要

学 科: 柔道整復科

科目名 (英)	職業倫理 Professional Ethics	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	平野 裕子
						実務経験	
コース	共通	授業 形態	講義	総時間 (単位)	20	開講区分	前期前半
					1	曜日・時限	月曜1・2・3限
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>医療専門職として柔道整復師が学ぶべき職業上の倫理、患者の権利とインフォームド・コンセント、個人情報の保護、望ましい接遇の実践、そして適切な施術料の請求の意義を理解するための医療保険制度を含む各社会保障制度について理解し、専門職としてのリテラシーを涵養する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>柔道整復師の業務や専門職としての責務について、現代日本における少子高齢化や医療技術の発達、患者の自己決定権の拡大等社会の変化に対する理解を通して、倫理的な思考を涵養する。</p>							

授業計画・内容	
1回目	柔道整復師とは(1)専門職としての柔整師の責務について説明できる(テキスト3A・3C)
2回目	柔道整復師とは(2)他職種との連携について説明できる(テキスト3A)
3回目	柔道整復師とは(3)患者との接し方の理論について説明できる(テキスト3A・2B)
4回目	柔道整復師とは(4)インフォームド・コンセントと患者の権利について説明できる(テキスト3B)
5回目	柔道整復師とは(5)患者との接し方の良しあしについて説明できる(テキスト3E)
6回目	柔道整復師とは(6)個人情報の保護・リスクマネジメントについて説明できる(テキスト3E)
7回目	社会保障制度(1)社会保障の機能について説明できる(テキスト1A)
8回目	社会保障制度(2)医療保険制度・介護保険制度について説明できる(テキスト1B・1C)
9回目	社会保障制度(3)診療報酬点数・柔道整復療養費について説明できる(テキスト1C・2A・2B)
10回目	最終テスト・解説
準備学習 時間外学習	各授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
評価方法	評価は、最終テストの結果によって行うが、最終テストの受験要件は、全10コマのうち2/3の出席をしたものに限る。
受講生への メッセージ	柔道整復師は、地域社会の人々の健康に貢献できる、素晴らしい職業です。一方、柔道整復師を取り巻く環境は年々厳しくなっています。専門職としての倫理(社会的なルール)を守り、「生き残れる柔整師」になるために、みなさんと共に考えていきたいと思っています。
【使用教科書・教材・参考書】	
全国柔道整復学校協会監修、社会保障制度と柔道整復師の職業倫理、医歯薬出版、2023	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	柔道 I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	木寺修作
	Judo I					実務経験	
コース	共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	後期・後半
					1	曜日・時限	

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

柔道実技から礼節や相手への思いやりの心を学び、人間教育の一環として実施する。
また、体の使い方を学び関節への負荷・影響など損傷原因になりうる動きを理解する。

【到達目標】

- ・認定実技審査の審査内容を理解する。
- ・認定実技審査の合格基準を身につける。
- ・認定実技審査に基づいた身構み・受身・形を身につける
- ・認定実技審査で決まっている試験時間内に審査が終わるようスムーズな動きが出来るようになる。

授業計画・内容	
1回目	認定実技に沿った礼法・前回受身(認定実技試験の概要説明)ができる
2回目	認定実技に沿った礼法・前回受身(認定実技試験時間配分説明・練習)ができる
3回目	認定実技に沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる
4回目	認定実技に沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる
5回目	認定実技に沿った礼法・前回受身(時間を測定し練習)ができる
6回目	認定実技に沿った礼法・前回受身(認定実技試験の採点項目練習)ができる
7回目	認定実技に沿った礼法・前回受身(認定実技試験の採点項目練習)ができる
8回目	本講義の範囲を理解し実践できる
9回目	本講義の範囲を理解し実践できる
10回目	試験
準備学習 時間外学習	講義外での反復練習が必要である。しかし柔道は指導者の元、柔道場で練習する事が安全に行う為の必須条件である為、学内の柔道場開放日に参加する事が望ましい。また適切な指導を受け、正しく新しい技や動きを身につける事が上達への近道の為、柔道は決して予習をせず、復習の時間を大切にす。
評価方法	実技・出席
受講生への メッセージ	柔道実技は強くなる為の授業ではありません。礼節を学び、怪我をしない動きを理解し実践する事を目標にしています。また認定実技審査合格の為に必要な実力をつける為に毎回受講するだけでなく、柔道場が解放されている日は練習に参加して下さい。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道着	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	柔道 II	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	木寺 修作
	JUDO II					実務経験	
コース	共通	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 2	開講区分	前期・後期前半
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>柔道の技の間合いや理合いを理解し、認定実技の審査項目に沿った礼法、受身を習得できる。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定実技審査の審査内容を理解する。 ・認定実技審査の合格基準でもある初段相当の実力を身につける。 ・認定実技審査に基づいた身運び・受身・形・立ち技を身につける ・認定実技審査で決まっている試験時間内に審査が終わるようスムーズな動きが出来るようになる。 ・格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事をやっているという自覚を持ち、相手に対する感謝の気持ちを忘れない。 ・認定実技審査に全員合格する。 							

授業計画・内容	
1回目	2年次の復習(礼法・前回受身)について実践できる
2回目	手技の足運びについて実践できる
3回目	手技で投げる練習について実践できる
4回目	腰技の足運びについて実践できる
5回目	腰技で投げる事が実践できる
6回目	足技の足運びについて実践できる
7回目	足技で投げる事が実践できる
8回目	前回受身での時間短縮と手技が実践できる
9回目	前回受身のタイム計測と腰技が実践できる
10回目	前回受身のタイム計測と足技が実践できる
11回目	前回受身のタイム計測と手技・腰技・足技が実践できる①
12回目	前回受身のタイム計測と手技・腰技・足技が実践できる②、移動打込が実践できる
13回目	前回受身のタイム計測と手技・腰技・足技が実践できる③、移動打込、移動投込が実践できる
14回目	約束乱取について理解し、約束乱取が実践できる①
15回目	手技・腰技・足技が実践できる④、約束乱取が実践できる②
16回目	実技試験について理解し、形が実践できる
17回目	実技試験練習①
18回目	実技試験練習②
19回目	実技試験練習③
20回目	前期実技試験

21回目	試験解説、評価を受けての振り返りをし、改善点を理解・実践できる
22回目	礼法・前回受身・形・約束乱取の補足、実技練習を実践できる
23回目	認定実技審査について理解し、実技練習が実践できる
24回目	認定実技審査対策が実践できる①
25回目	認定実技審査対策が実践できる②
26回目	認定実技審査解説、評価を受けての振り返りをし、改善点を理解・実践できる
27回目	口頭試問対策(柔道の歴史、理念)を理解し認定実技審査対策が実践できる
28回目	口頭試問対策(審判規定、礼法)を理解し認定実技審査対策が実践できる
29回目	口頭試問対策(受身)を理解し認定実技審査対策が実践できる
30回目	実技試験、口頭試問
準備学習 時間外学習	授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する。
評価方法	実技試験・口頭試問
受講生への メッセージ	初段相当の実力をつける為、投の形のうち手技・腰技・足技を習得し立技の練習も行います。認定実技審査の合格基準でもある為、年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容になっています。
【使用教科書・教材・参考書】	
柔道着	

2024年度 授業概要

学 科：柔道整復科

科目名 (英)	実践臨床柔道整復学	必修 選択	必修	年次	3	担当教員 実務経験	複数の専任教員
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	120 6	開講区分 曜日・時限	後期
コース	共通	【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 柔道整復師の臨床現場にて必要な知識(解剖・生理・運動・衛生・公衆衛生・病理・法規・外科・リハビリテーション・一般臨床・整形外科・柔道整復)を深め、現場に出た時に即戦力となる為の学習					
【到達目標】 患者が来院された時の様々なシチュエーションの中で、患者とのコミュニケーションに必要な各科目の知識や国家試験を受験するにあたって必要な知識が習得できているかを確認することを目的とする。 到達目標は国家試験に合格できるレベルとする。							

授業計画・内容	
1回目	診察各論(視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、臨床症状)について説明できる
2回目	上肢損傷、下肢損傷について説明できる
3回目	体液・神経の生理について説明できる
4回目	整形外科 診察法・検査法について説明できる
5回目	頭部・体幹の軟部組織損傷について説明できる
6回目	頭部・体幹の骨折と脱臼について説明できる
7回目	呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患について説明できる
8回目	頸肩腕症候群・腰痛について説明できる
9回目	筋・循環器系・呼吸器系の生理について説明できる
10回目	整形外科 治療法について説明できる
11回目	上肢の軟部組織損傷について説明できる①
12回目	上肢の骨折と脱臼について説明できる①
13回目	血液・造血器疾患、腎・尿路疾患、神経疾患、感染症、リウマチ、膠原病、その他について説明できる
14回目	肋骨骨折、アキレス腱断裂について説明できる
15回目	消化と吸収・栄養と代謝の生理について説明できる
16回目	整形外科 総論について説明できる
17回目	上肢の軟部組織損傷について説明できる②
18回目	上肢の骨折と脱臼について説明できる②
19回目	細胞傷害、循環障害、進行性病変について説明できる
20回目	介護保険法について説明できる①
21回目	体温調節・内分泌機能と生殖の生理について説明できる
22回目	スポーツ整形外科 総論について説明できる
23回目	上肢の軟部組織損傷について説明できる③
24回目	上肢の骨折と脱臼について説明できる③
25回目	炎症、アレルギー、腫瘍、先天性異常、病因について説明できる
26回目	介護保険法について説明できる②
27回目	腎機能と構造の生理について説明できる
28回目	整形外科 疾患別各論について説明できる①
29回目	上肢の軟部組織損傷について説明できる④
30回目	上肢の骨折と脱臼について説明できる④

31回目	外科学 総論について説明できる
32回目	障害者スポーツについて説明できる①
33回目	疾病予防と健康管理、感染症の予防について説明できる
34回目	整形外科 疾患別各論について説明できる②
35回目	下肢の軟部組織損傷について説明できる①
36回目	下肢の骨折と脱臼について説明できる①
37回目	外科学 各論について説明できる
38回目	障害者スポーツについて説明できる②
39回目	消毒、環境衛生について説明できる
40回目	整形外科 身体別各論について説明できる①
41回目	下肢の軟部組織損傷について説明できる②
42回目	下肢の骨折と脱臼について説明できる②
43回目	衛生行政と保健医療の制度について説明できる（関係する法律について説明できる）
44回目	リハビリテーション 問題演習
45回目	母子保健・学校保健・産業保健について説明できる
46回目	整形外科 身体別各論について説明できる②
47回目	下肢の軟部組織損傷について説明できる③
48回目	下肢の骨折と脱臼について説明できる③
49回目	本講義の内容について理解し説明できる①
50回目	本講義の内容について理解し説明できる②
51回目	本講義の内容について理解し説明できる③
52回目	本講義の内容について理解し説明できる④
53回目	本講義の内容について理解し説明できる⑤
54回目	本講義の内容について理解し説明できる⑥
55回目	本講義の内容について理解し説明できる⑦
56回目	本講義の内容について理解し説明できる⑧
57回目	実践柔道整復学の演習①
58回目	実践柔道整復学の演習②
59回目	実践柔道整復学の演習③
60回目	実践柔道整復学の演習④
準備学習 時間外学習	事前に教科書、配布資料をよく読んでおくこと
評価方法	科目認定試験100%
受講生への メッセージ	在学3年間で学んだことの集大成として、国家試験を受験するにあたって必要な知識がしっかり身についているかを確認する講義です。理解が不十分なところを再度確認し、国家試験に挑めるよう最善を尽くしてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
全国柔道整復学校協会監修 教科書	